

# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

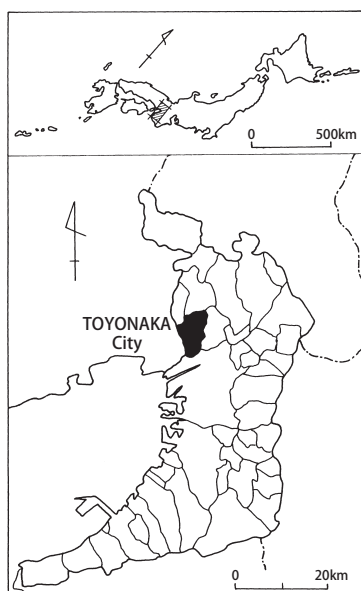
平成 28 年度 (2016 年度)

平成 29 年 (2017 年) 3 月

豊 中 市 教 育 委 員 会

# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 28 年度（2016 年度）



平成 29 年（2017 年） 3 月

豊中市教育委員会





## 序 文

豊中市は、大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県と接しています。千里丘陵にかつて広大な森林を控えたこの地は、神崎川や猪名川から常に豊かな水がもたらされ、古くから人々の生活の場が育まれてきた結果、多くの歴史的遺産が受け継がれてきました。その一方、商都大阪に隣接する関係により、早くから大阪北郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。近年になって開発の勢いは落ち着いてきたものの、土地利用の形態が変化してきたことを受けて小規模開発が急増し、住宅の老朽化に伴う建て替えも依然として多く、埋蔵文化財の保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性を踏まえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。今回は、平成 28 年度に調査を実施した本町遺跡、桜塚古墳群、原田遺跡ならびに各遺跡における確認調査に加え、平成 27 年度後期に実施した各遺跡における確認調査も掲載いたしました。本町遺跡では古墳時代後期の柱穴や溝が、桜塚古墳群では弥生時代後期の溝が確認され、原田遺跡では原田城跡（北城）に伴う堀が確認されるなど、各遺跡において新たな知見が得られました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、わたしたち現代に暮らす人間にとっても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来形成のために役立つことを願ってやみません。

調査の実施にあたっては、土地所有者、施工関係者、近隣の住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。また文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中市の文化財保護行政が推進できたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成 29 年（2017 年）3 月 31 日

豊中市教育長 大 源 文 造

## 例 言

1. 本書は、平成 28 年度国庫補助事業(総額 7,200,000 円、国庫 3,600,000 円、市費 3,600,000 円)として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また平成 28 年 1 ～ 3 月に実施した確認調査の成果も併せて収録した。
2. 平成 28 年度事業として、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。
3. 発掘調査は、本市教育委員会事務局生涯学習課文化財保護係が実施した。
4. 本書のうち、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ章は陣内高志が、第Ⅲ章を清水篤が執筆した。また、第Ⅴ章は各調査担当者の見解をもとに、浅田尚子が執筆した。  
なお、全体の編集は陣内が行なった。
5. 各挿図に掲載した方位表記のうち、M. N. は磁北、また表記のないものは国土座標系(第Ⅵ系)に基づく座標北を示す。
6. 挿図・本文中の土色表記の基準は、『新版標準土色帖 2010 年版』に基づく。
7. 挿図に掲載した出土遺物の縮尺は原則 1 : 3 または 1 : 4 とする。
8. 各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただきました。併せてここに明記し、深謝いたします。

本書掲載本発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
本町遺跡	第 42 次	豊中市本町 3 丁目 105 - 7	55.36 m <sup>2</sup>	陣内高志	平成 28 年 6 月 7 日 ～ 7 月 1 日
桜塚古墳群	第 13 次	豊中市南桜塚 1 丁目 246 - 10	88.75 m <sup>2</sup>	清水 篤	平成 28 年 7 月 25 日 ～ 8 月 25 日
原田遺跡	第 15 次	豊中市曾根西町 4 丁目 27-1,27-5	128.0 m <sup>2</sup>	陣内高志	平成 28 年 11 月 1 日 ～ 12 月 15 日

# 目 次

第Ⅰ章 位置と環境	(陣内)
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
第Ⅱ章 本町遺跡第42次調査	(陣内)
1. 調査の経緯	5
2. 調査の成果	5
(1) 遺跡の概要	6
(2) 基本層序	6
(3) 検出した遺構と遺物	6
3. まとめ	9
第Ⅲ章 桜塚古墳群第13次調査	(清水)
1. 調査の経緯	11
2. 調査の成果	11
(1) 遺跡の概要	11
(2) 基本層序	12
(3) 検出した遺構と遺物	12
3. まとめ	15
第Ⅳ章 原田遺跡第15次調査	(陣内)
1. 調査の経緯	17
2. 調査の成果	18
(1) 遺跡の概要	18
(2) 基本層序	18
(3) 検出した遺構と遺物	18
3. まとめ	25
第Ⅴ章 確認調査の成果	(浅田)
確認調査の概要	27

# 挿図・表目次

## (第Ⅰ章 位置と環境)

第 1 図 市内遺跡分布図	2
第 2 図 調査地点と周辺の地形	4

## (第Ⅱ章 本町遺跡第 42 次調査)

第 3 図 調査範囲図 (1:200)	5
第 4 図 調査地位置図 (1:5,000)	5
第 5 図 調査区 平面・断面図 (1:60)	7
第 6 図 柱穴 (SP)・溝 1 断面図 (1:30)	8
第 7 図 出土遺物 (1:4 ※ 7 のみ 1:8)	8

## (第Ⅲ章 桜塚古墳群第 13 次調査)

第 8 図 調査範囲図 (1:250)	11
第 9 図 調査地位置図 (1:5,000)	11
第 10 図 調査区 平面・断面図 (1:50)	13・14
第 11 図 溝 1・溝 2 断面図 (1:25)	15
第 12 図 出土遺物 (1:3)	15

## (第Ⅳ章 原田遺跡第 15 次調査)

第 13 図 調査範囲図 (1:200)	17
第 14 図 調査地位置図 (1:5,000)	17
第 15 図 調査区 平面・断面図 (1:80)	19・20
第 16 図 柱穴・ピット断面図 (1:30)	21
第 17 図 出土遺物 (1:4 ※ 1～5 は 1:3)	22
第 18 図 調査区周辺における検出遺構図	24

## (第Ⅴ章 確認調査の成果)

第 1 表 平成 28 年 (2016 年) 確認調査一覧表	27
第 19 図 確認調査地点位置図	28
第 20 図 トレンチ掘削状況	29
第 21 図 トレンチ断面図	29
第 22 図 トレンチ掘削状況	29
第 23 図 トレンチ断面図	29
第 24 図 トレンチ掘削状況	29

第 25 図	トレンチ断面図	29
第 26 図	トレンチ掘削状況	30
第 27 図	トレンチ断面図	30
第 28 図	トレンチ掘削状況	30
第 29 図	トレンチ断面図	30
第 30 図	トレンチ掘削状況	30
第 31 図	トレンチ断面図	30
第 32 図	トレンチ掘削状況	31
第 33 図	トレンチ断面図	31
第 34 図	トレンチ掘削状況	31
第 35 図	トレンチ断面図	31
第 36 図	トレンチ掘削状況	31
第 37 図	トレンチ断面図	31
第 38 図	トレンチ掘削状況	32
第 39 図	トレンチ平面・断面図	32
第 40 図	トレンチ掘削状況	32
第 41 図	トレンチ断面図	32
第 42 図	トレンチ掘削状況	32
第 43 図	トレンチ断面図	32
第 44 図	トレンチ掘削状況	33
第 45 図	トレンチ断面図	33
第 46 図	トレンチ掘削状況	33
第 47 図	トレンチ平面・断面図	33
第 48 図	トレンチ掘削状況	33
第 49 図	トレンチ断面図	33
第 50 図	トレンチ掘削状況	34
第 51 図	トレンチ断面図	34
第 52 図	トレンチ掘削状況	34
第 53 図	トレンチ断面図	34
第 54 図	トレンチ掘削状況	34
第 55 図	トレンチ断面図	34
第 56 図	トレンチ掘削状況	35
第 57 図	トレンチ断面図	35
第 58 図	トレンチ掘削状況	35
第 59 図	トレンチ断面図	35
第 60 図	トレンチ掘削状況	35
第 61 図	トレンチ断面図	35

第 62 図	トレンチ掘削状況	36
第 63 図	トレンチ断面図	36
第 64 図	トレンチ掘削状況	36
第 65 図	トレンチ断面図	36
第 66 図	トレンチ掘削状況	36
第 67 図	トレンチ断面図	36
第 68 図	トレンチ掘削状況	37
第 69 図	トレンチ平面・断面図	37
第 70 図	トレンチ掘削状況	37
第 71 図	トレンチ断面図	37
第 72 図	トレンチ掘削状況	38
第 73 図	トレンチ断面図	38
第 74 図	トレンチ掘削状況	38
第 75 図	トレンチ断面図	38
第 76 図	トレンチ掘削状況	38
第 77 図	トレンチ断面図	38
第 78 図	トレンチ掘削状況	39
第 79 図	トレンチ断面図	39
第 80 図	トレンチ掘削状況	39
第 81 図	トレンチ断面図	39
第 82 図	トレンチ掘削状況	40
第 83 図	トレンチ断面図	40
第 84 図	トレンチ掘削状況	40
第 85 図	トレンチ断面図	40
第 86 図	トレンチ掘削状況	40
第 87 図	トレンチ断面図	40
第 88 図	トレンチ掘削状況	41
第 89 図	トレンチ断面図	41

# 写真図版目次

## 図版 1 本町遺跡第 42 次調査

- (1) 調査前 (北西から)
- (2) 重機掘削 (北西から)

## 図版 2 本町遺跡第 42 次調査

- (1) 東半部 遺構検出状況 (西から)
- (2) 東半部 完掘状況 (西から)

## 図版 3 本町遺跡第 42 次調査

- (1) 西半部 遺構検出状況 (東から)
- (2) 西半部 完掘状況 (南西から)

## 図版 4 本町遺跡第 42 次調査

- (1) 土坑 1 須恵器出土状況 (北西から)
- (2) 土坑 2 検出状況 (北東から)

## 図版 5 本町遺跡第 42 次調査

- (1) 土坑 2 遺物出土状況 (東から)
- (2) 土坑 2 遺物出土状況 (拡大)

## 図版 6 本町遺跡第 42 次調査

- (1) SP16 断面 (東から)
- (2) 溝 1 断面 (南西から)

## 図版 7 本町遺跡第 42 次調査

- (1) 調査区南壁面断面 (北から)
- (2) 埋戻し後 (北西から)

## 図版 8 本町遺跡第 42 次調査 出土遺物

- (1) 土坑 1 出土遺物
- (2) SP8 出土遺物
- (3) 包含層出土遺物 1
- (4) 包含層出土遺物 2

## 図版 9 本町遺跡第 42 次調査 出土遺物

- (1) 土坑 2 出土遺物 1
- (2) 土坑 2 出土遺物 2
- (3) 土坑 2 出土遺物 3

## 図版 10 桜塚古墳群第 13 次調査

- (1) 1 区 溝 1 断面 (西から)
- (2) 1 区 完掘状況 (南西から)

## 図版 11 桜塚古墳群第 13 次調査

- (1) 2 区 溝 2 断面 (南から)
- (2) 2 区 完掘状況 (北東から)

## 図版 12 桜塚古墳群第 13 次調査

- (1) 溝 2 遺物出土状況
- (2) 溝 1・2 出土遺物

## 図版 13 原田遺跡第 15 次調査

- (1) 調査前 (北東から)
- (2) 重機掘削開始 (南西から)

## 図版 14 原田遺跡第 15 次調査

- (1) 西半部 遺構検出状況 (北東から)
- (2) 西半部 完掘状況 (北東から)

## 図版 15 原田遺跡第 15 次調査

- (1) 東半部 遺構検出状況 (南西から)
- (2) 東半部 完掘状況 (西から)

## 図版 16 原田遺跡第 15 次調査

- (1) 東半部 堀断面 (調査区東壁面)
- (2) 東半部 堀掘削状況 (南西から)



図版 17 原田遺跡第 15 次調査

- (1) 西半部 堀（南北方向）断面
- (2) 西半部 堀（東西方向）断面

図版 18 原田遺跡第 15 次調査

- (1) 西半部 堀屈曲部分（上から）
- (2) 西半部 堀基底面

図版 19 原田遺跡第 15 次調査

- (1) 溝 2（南西から）
- (2) SP13 断面（南東から）
- (3) SP14 断面（東から）
- (4) SP23 断面（南東から）
- (5) SP37 断面（南から）

図版 20 原田遺跡第 15 次調査

- (1) 埋戻し後（北西から）
- (2) 現地説明会（北西から）

図版 21 原田遺跡第 15 次調査 出土遺物

- (1) 堀出土遺物 1
- (2) 堀出土遺物 2

図版 22 原田遺跡第 15 次調査 出土遺物

- (1) 堀出土遺物 3
- (2) 堀以外の出土遺物

# 第 I 章 位置と環境

## 1. 地理的環境

豊中市は大阪市の北方に位置し、西は猪名川を介して兵庫県と接しており、旧国名では摂津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治 43 年箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）開通を契機に宅地化が進み、現在では市域面積約 37 km<sup>2</sup>中に 39 万人もの人口を擁する北摂最大の住宅都市へと発展した。ここに到った背景としては大阪市近郊であることに加え、名神高速道路や阪神高速道路などの自動車専用道路や、阪急電鉄や北大阪急行、大阪モノレールによる電車網、さらには大阪国際空港に示される交通の利便性の高さが挙げられる。

一方、地形に目を転じると、豊中市は巨視的に見て北から南に向かって標高が徐々に低くなるなだらかな地形を呈しており、市内最高地点である島熊山（海拔約 100m）から最も低い大島町付近（海拔 1m 以下）にかけての比高差はおよそ 100m である。ここで地形的特徴に基づくと、おおよそ北部・中部・南部という三地域に区分可能である。北部一帯は千里丘陵と刀根山丘陵と呼ばれる 2 つの丘陵地からなる。前者の千里丘陵は大阪層群の模式地としてその名が知られている通りである。続いて中部一帯は主に千里丘陵から派生する中・低位段丘を中心とした通称豊中台地に該当し、最後に南部一帯は猪名川水系、天竺川、高川の沖積作用によって形成された平野部という見方ができる。

第 II 章で報告する本町遺跡は豊中台地北部の低位段丘上、第 III 章の桜塚古墳群は豊中台地中央から南部にかけてのエリア、第 IV 章の原田遺跡は豊中台地南西端部の中位～低位段丘上にそれぞれ立地する。

## 2. 歴史的環境

ここでは、今回報告する 3 遺跡の動向を中心に記述する。

**本町遺跡** 千里川中流域に立地する本町遺跡は弥生時代中期頃、新免遺跡よりもやや遅れて成立したと考えられ、以後近世まで続く集落遺跡である。遺跡の盛期は古墳時代後期～奈良時代である。古墳時代後期の集落では、須恵器不良品を多数含んだ土坑が確認されており、新免遺跡と同様に千里川上流の桜井谷窯跡群における須恵器生産～流通の一角を担っていた可能性が考えられている。一方、奈良時代になると遺跡北中部を中心に掘立柱建物群からなる集落が確認されており、これらは飛鳥時代に遺跡東方で建立された金寺山廃寺との関連が考えられている。

今回第 II 章で報告する調査地は同遺跡西部に所在し、付近では古墳時代後期の集落関連遺構が検出されている。

**桜塚古墳群** 古墳時代前期後半、豊中台地に突如出現する大石塚古墳と、それに続く小石塚古墳は桜塚古墳群の築造開始を告げるものであった。同古墳群は少なくとも 40～50 基の古墳がかつては所在したとみられるが、後世の開発によってその多くが消滅してしまい、5 基が現存するのみである。近年、今回の調査地を含む同古墳群南部では小規模な古墳の発見が相次いでいる。



## 2. 歴史的環境



- |                        |                |                       |              |                       |                       |
|------------------------|----------------|-----------------------|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 太鼓塚古墳群              | 15. 蛭池北(宮の前)遺跡 | 30. 箕輪東遺跡             | 44. 原田西遺跡    | 58. 石蓮寺廃寺             | 72. 小曾根南遺跡            |
| 2. 野畑春日町古墳群            | 16. 蛭池東遺跡      | 31. 箕輪遺跡              | 45. 勝部遺跡     | 59. 石蓮寺遺跡             | 73. 上総国飯野藩<br>保科氏浜陣屋跡 |
| 3. 野畑遺跡                | 17. 蛭池西遺跡      | 32. 山ノ上遺跡             | 46. 勝部東遺跡    | 60. 寺内遺跡              | 74. 上津島川床遺跡           |
| 4. 野畑春日町遺跡             | 18. 蛭池遺跡       | 33. 勝部北遺跡             | 47. 原田城跡(北城) | 61. 利倉北遺跡             | 75. 上津島遺跡             |
| 5. 少路遺跡                | 19. 麻田藩陣屋跡     | 34. 走井遺跡              | 48. 原田遺跡     | 62. 利倉遺跡              | 76. 上津島南遺跡            |
| 6. 武蔵国阿部藩安部氏<br>桜井谷陣屋跡 | 20. 南刀根山遺跡     | 35. 岡町北遺跡             | 49. 曾根遺跡     | 63. 利倉南遺跡             | 77. 穂積ポンプ場遺跡          |
| 7. 桜井谷石器散布地            | 21. 御神山古墳      | 36. 岡町遺跡              | 50. 曾根東遺跡    | 64. 利倉西遺跡             | 78. 島田遺跡              |
| 8. 羽鷹下池南遺跡             | 22. 上野遺跡       | 37. 岡町南遺跡             | 51. 原田中町遺跡   | 65. 椎堂の前遺跡            | 79. 庄内遺跡              |
| 9. 待兼山古墳               | 23. 青池古墳       | 38. 桜塚古墳群             | 52. 曾根埴輪窯跡   | 66. 服部西遺跡             | 80. 島江遺跡              |
| 10. 待兼山遺跡              | 24. 熊野田遺跡      | 39. 下原窯跡群             | 53. 豊島北遺跡    | 67. 穂積遺跡              | 81. 庄本遺跡              |
| 11. 内田遺跡               | 25. 金寺山廃寺      | 40. 長興寺遺跡             | 54. 曾根南遺跡    | 68. 穂積村開堤             |                       |
| 12. 柴原遺跡               | 26. 新免宮山古墳群    | 41. 梅塚古墳              | 55. 城山遺跡     | 69. 小曾根遺跡             |                       |
| 13. 北刀根山遺跡             | 27. 金寺山廃寺塔利柱礎石 | 42. 埴輪散布地             | 56. 服部遺跡     | 70. 春日大社南郷目代<br>今西氏屋敷 |                       |
| 14. 桜井谷窯跡群             | 28. 本町遺跡       | 43. 大坂城鉄砲奉行支配<br>埴輪蔵跡 | 57. 若竹町遺跡    | 71. 北条遺跡              |                       |
|                        | 29. 新免遺跡       |                       |              |                       |                       |

第1図 市内遺跡分布図

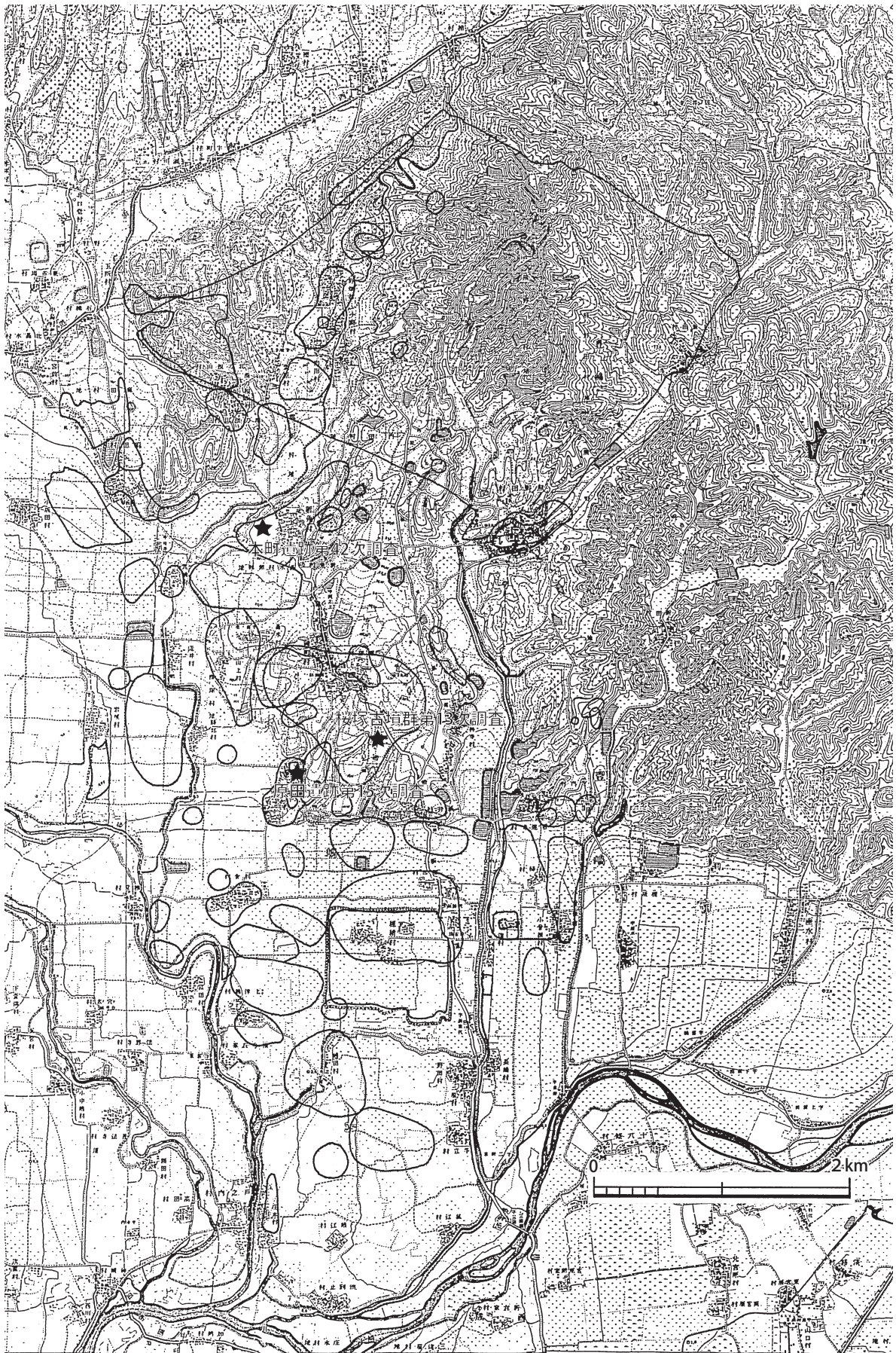


同群南部で発見される新規の古墳は、古墳時代後期初頭前後の築造のことが多いことから、同群後半期から終焉の動態を把握する上で重要となつてこよう。

今回第Ⅲ章で報告する調査地は同群南部に位置するため、後半期の古墳についての知見が得られるものと期待された。

**原田遺跡** 段丘の末端に立地する原田遺跡は、遺跡の初現は弥生時代中期～後期とみられ、同後期末頃に一旦衰退するようである。その後 11 世紀末になると原田郷に関する文献史料が登場し、15 世紀後半には原田氏の居館としての原田城が成立していたことがうかがえる。原田城には北城と南城が存在し、近年の発掘調査によって北城の成立は 15 世紀代、南城は 16 世紀代と考えられ、廃絶時期はともに 16 世紀末～17 世紀初頭頃とみられている。

今回第Ⅳ章で報告する調査地は、原田城跡(北城)の一角でもあり、昨年実施の第 13 次調査区(東隣)と同様に、原田城跡(北城)関連の遺構が検出されるものと期待された。



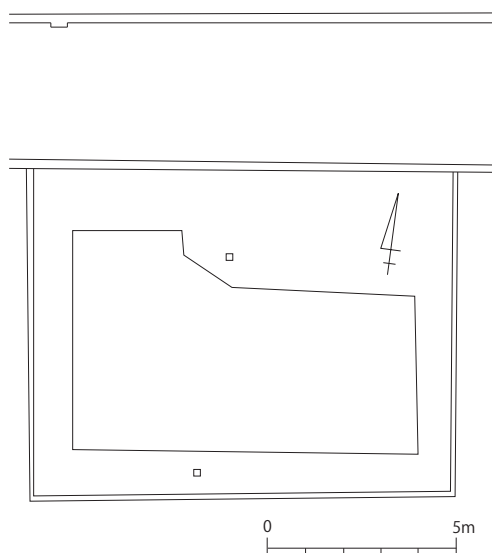
第2図 調査地点と周辺の地形



## 第Ⅱ章 本町遺跡第 42 次調査

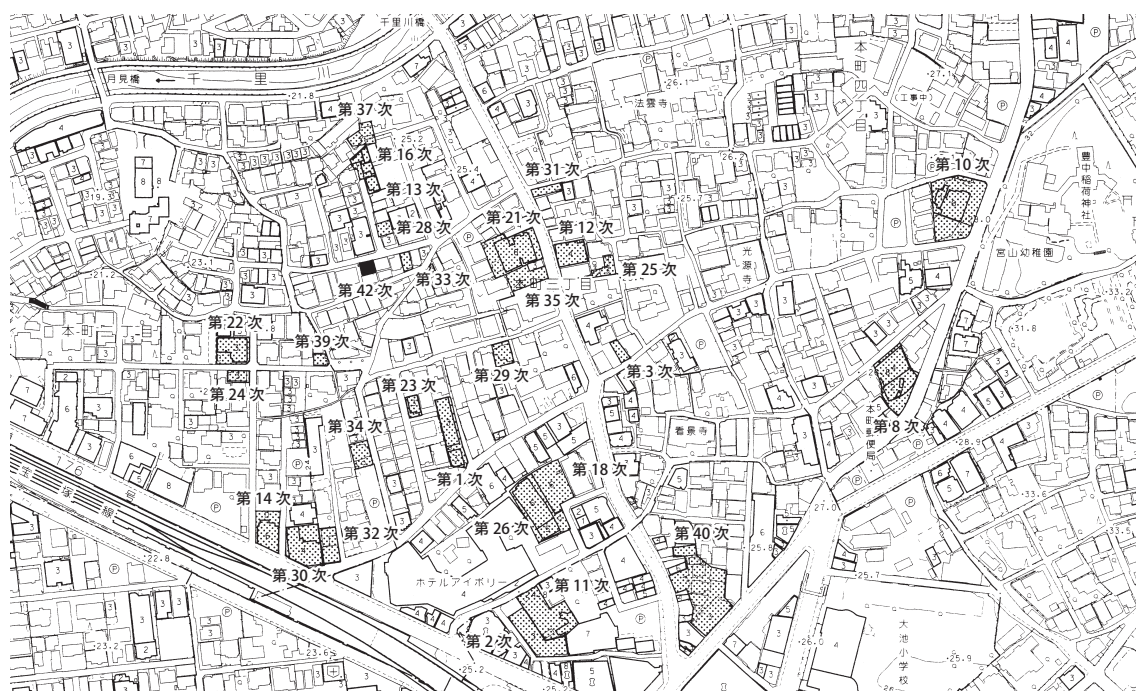
## 1. 調査の経緯

今回の調査地は本町3丁目105-7に所在する。平成28年4月20日に提出された土木工事等による埋蔵文化財包蔵地の発掘届出に基づいて、4月28日確認調査を実施したところ、地表下50cmで遺物包含層を、同60cmで基盤層とその上面より遺構を検出した。一方、予定建物建築に伴う掘削深度は地表下165cmに達することから、現行の計画の場合、遺構破壊は免れないことが判明した。このことについて事業主と協議の結果、建築計画に変更はなく、よって緊急の本発掘調査を実施することになった。現地調査は平成28年6月7日から7月1日にかけて実施し、調査面積は55.36㎡である。なお廃土スペース確保のため、場内反転による調査を行った。



第3図 調査範囲図 (1:200)

## 2. 調査の成果



第4図 調査地位置図 (1:5,000)

## 2. 調査の成果

### (1) 遺跡の概要

千里川中流域の東岸に立地する本町遺跡は、弥生時代中期以降、西接する新免遺跡よりやや遅れて誕生したとみられ、以後近世まで続く集落遺跡である。過去 41 件の本発掘調査結果から、遺跡の盛期は古墳時代後期～奈良時代である。なかでも古墳時代後期の本町遺跡集落では須恵器不良品が多数出土する土坑が検出されており、新免遺跡と同様、千里川上流域に展開した桜井谷窯跡群における須恵器生産との関連が考えられる。また奈良時代には、遺跡中北部一帯に掘立柱建物群からなる集落が確認されており、これらは本町遺跡東方に建立された飛鳥時代～平安時代に営まれた金寺山廃寺と関連が指摘されている。

今回の調査地は遺跡の西部に位置し、付近では古墳時代後期の集落関連遺構が確認されていることから、当該時期の調査成果が見込まれた。

### (2) 基本層序

当該調査区における基本層序は、概ね下記の 4 層で構成される。

1 層：現代の盛土であり、層厚 40 ～ 50 cm である。

2 層：灰黄褐色 (10YR5/2 ～ 10YR4/2) 中粒砂。粗粒砂・礫 (～ 5mm) を若干含む。須恵器、瓦器碗碎片などの遺物包含層である。遺物から中世以降に形成されたとみられる。

3 層：黒褐色 (10YR3/1) 極細粒砂 (シルトも少量含む)。礫 (～ 10mm) を多く含む。少量であるが弥生時代後期土器、須恵器碎片などの遺物包含層である。

4 層：黄橙色 (10YR7/6) 粘質中粒砂。粗粒砂～礫 (～ 10mm) を非常に多く含む。当該調査区における基盤層である。3 層と 4 層の層理面は調査区東半部において不明瞭であった。これは樹根等の影響とみられる。

調査は重機で 2 層までを除去し、3 層 (基盤層) 上面検出後は人力による掘削を行った。

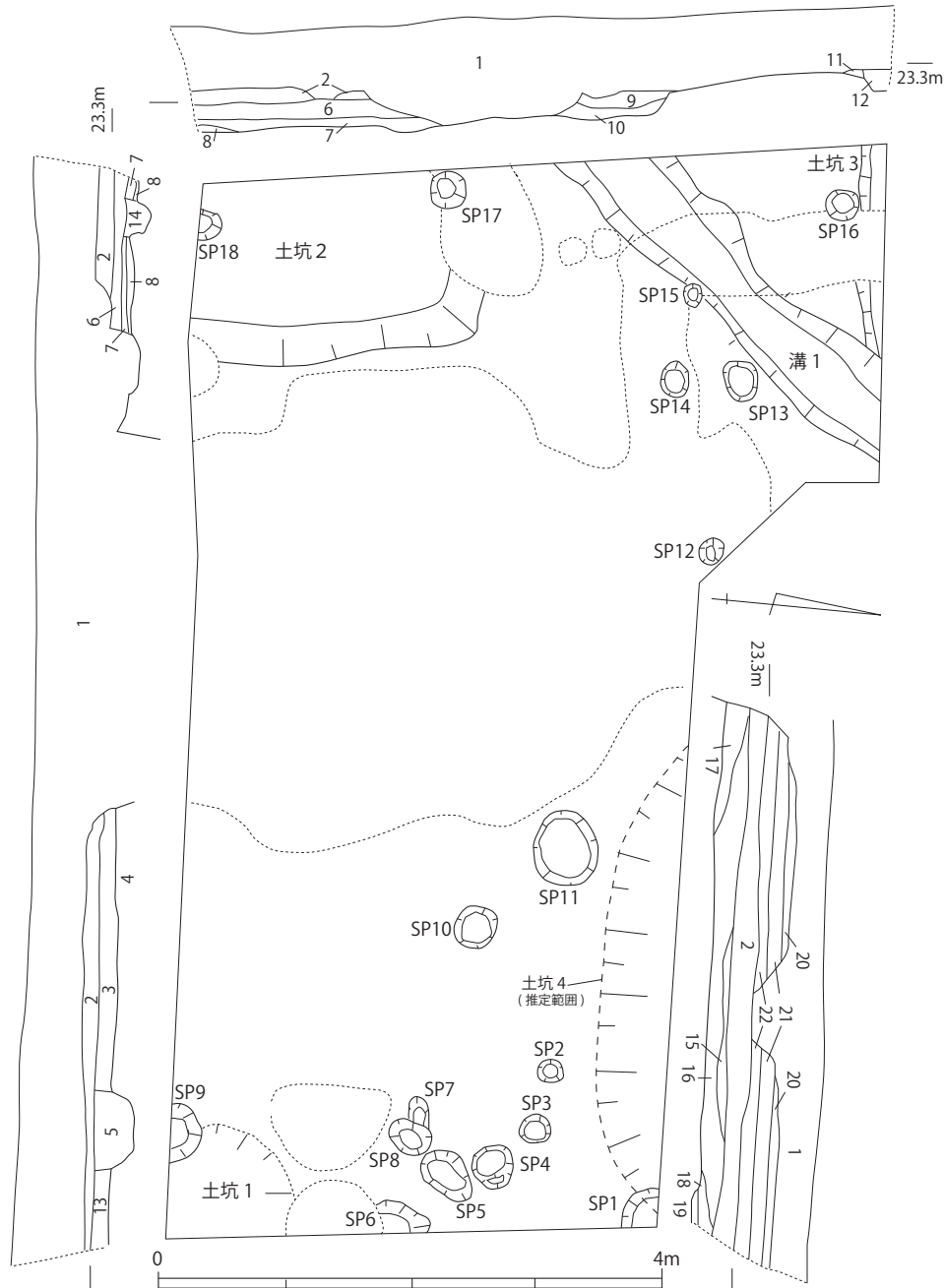
### (3) 検出した遺構と遺物

今回検出した遺構は土坑 4 基、溝 1 条、柱穴 18 基であった。以下、主要な遺構・遺物について報告する。

**土坑 1** 調査区南東隅部で検出したもので、直径 50cm 以上の円・楕円の平面形が考えられる土坑である。断面観察によれば 3 層から掘り込まれている。埋土中からは弥生土器、須恵器碎片が出土している。

第 7 図 1 は須恵器杯身であり、口縁部直径 13.2cm、器高 5cm をはかる。2 は弥生土器底部である。以上、土坑 1 の時期は出土遺物より 6 世紀前葉頃と考えられる。

**土坑 2** 調査区南西部で検出したもので、東西 1.2m 以上、南北 2m 以上、深度 0.2m 程度、平面方形であったとみられる。埋土は 3 層で構成され、いずれも灰黄褐色極細粒砂を主体とするもので、

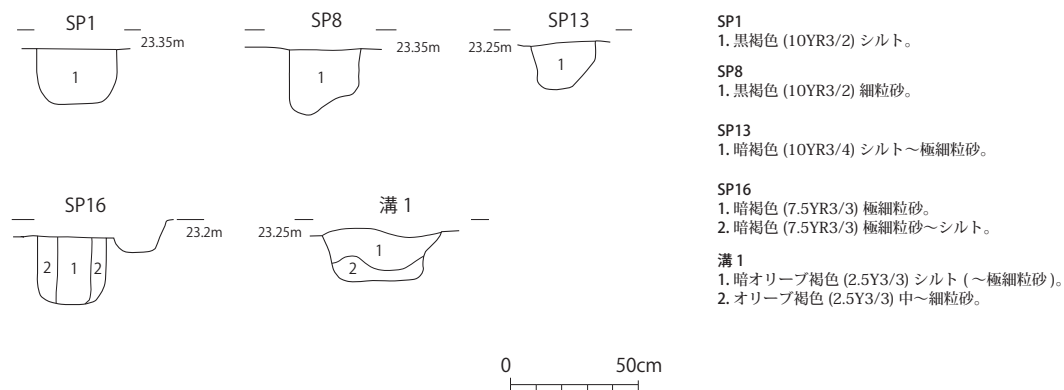


1. 近現代の攪乱・整地土 2. 灰黄褐色 (10YR5/2～4/2) 中粒砂。粗粒砂～礫 (～5mm) を少量含む。基本層第2層 3. 黒褐色 (7.5Y3/1) 極細粒砂 (シルト含む)。礫 (～10mm) を多く含む。遺物包含層。基本層第3層。 4. 黄褐色 (10YR7/6) 粘質中粒砂。粗粒砂～礫 (～10mm) を多く含む。基盤層。基本層第4層。 5. 黒褐色 (10YR3/1) シルト (極細粒砂も含む)。SP9 埋土。 6. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 極細粒砂～シルト。土坑2埋土上層。 7. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 極細粒砂 (～シルト)。8 と似るが全体的に粒子が細かい。土坑2埋土中層。 8. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細～極細粒砂。土坑2埋土下層。 9. 黒褐色 (10YR3/2) シルト。溝1埋土上層。 10. 黒褐色 (10YR2/2) 細～極細粒砂。SD1 埋土下層。9 よりも灰色がかかった色調を呈する。 11. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 極細粒砂 (～シルト)。土坑3埋土 12. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 極細粒砂 (～シルト)。土坑3埋土。 13. 黒褐色 (10YR3/2) 極細粒砂～シルト。須恵器・弥生土器碎片包含。土坑1埋土。 14. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 極細粒砂。基盤層ブロック (～2cm) を微量含む。SP18 埋土。 15. 黒褐色 (10YR3/1) 極細粒砂 (～シルト)。礫少量含む。土器碎片、炭化物多く含む。土坑4埋土上層。 16. 黒褐色 (10YR3/1) 粘性極細粒砂に暗赤褐色 (5YR3/6) シルトを約20%含む。礫 (～5mm) 少量含む。土坑4埋土下層。 17. 黒褐色 (10YR3/1) 粘性シルト。礫 (～10mm) 少量含む。 18. 黒褐色 (10YR3/1) 粘性シルト。礫 (5～10mm) 少量含む。 19. 褐灰色 (10YR5/1) 極細粒砂～シルト。SP1 埋土。 20. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細粒砂 (～中粒砂)。5～10mm の亜円礫を含む。軟弱。 21. 灰黄褐色 (10YR5/2) にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルト。粗粒砂～10mm の亜円礫を少量含む。軟弱。 22. 灰黄褐色 (10YR5/2～4/2) シルト。～15mm の亜円礫少量含む。軟弱。灰白色シルトブロックをわずかに含む。

第5図 調査区 平面・断面図 (1:60)



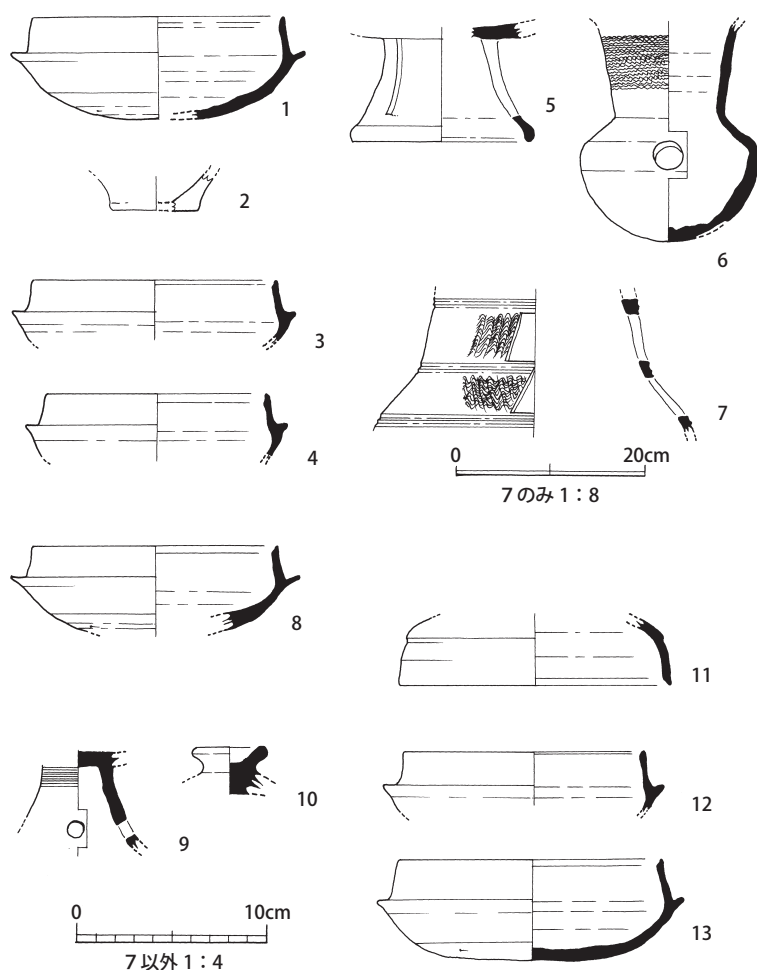
## 2. 調査の成果



第6図 柱穴 (SP)・溝1断面図 (1:30)

中層、下層はやや粒子が粗い傾向がある。遺物は弥生土器・土師器・須恵器の碎片がみとめられ、これらは上層出土のものが大半であった。土坑2は隅丸方形竪穴住居の一部である可能性も否定できない。

図化し得た出土遺物 (第7図3～7) はすべて須恵器であり、西壁際付近においてまとまって出土した。出土状況については写真図版5(1)(2)を参照されたい。5は低脚高杯に伴う脚部片であり、



第7図 出土遺物 (1:4 ※7のみ1:8)

4方透かしとみられる。6のハソウは体部に装飾が施されない簡素なものである。口縁部の形態は欠損のため不明である。7は器台の脚部片である。三角形または台形の透かしがみとめられる。

土坑2の時期は、出土遺物より6世紀初頭～前葉と考えられる。

土坑3 調査区北西端部で部分的に検出されたものであり、東側も溝1によって切られている。東西1.5m以上、南北0.4m以上、深度0.15m以上である。埋土中から須恵器碎片が出土していることから、当該土坑の時期は古墳時代後期段階とみられる。

土坑4 調査区東部で検出した。平面による検出が困難であったが北壁面断面観察によりその所在を確認したものであり、15・16層を埋土とする土坑である。東西2.8m以上、南北0.6m以上、深

度 0.15m 程度の規模が想定される。埋土中に層厚数センチの炭化物・焼土層がみつめられる。埋土中に炭化物・焼土が認められた遺構は土坑 4 が唯一であった。土坑 4 の性格については部分的な検出であるため不明である。時期は古墳時代後期段階とみられる。

**溝 1** 調査区北西部において検出したもので、検出幅 0.8m、深度約 0.3m をはかる。溝は南西から北東方向の調査区外へほぼまっすぐのびる。埋土は上下 2 層で構成され、いずれも黒褐色極細粒砂～シルトを主体とする。出土した須恵器、弥生土器碎片はすべて上層出土である。溝の時期は古墳時代後期と考えられる。

**柱穴 (SP)** 検出した 18 基は調査区全域に点在している。主要な柱穴の断面図は第 6 図に掲載した。SP3 は調査区東端部付近で検出した。埋土中から土師器碎片が出土している。SP8 も調査区東端付近で検出された。埋土中出土の須恵器杯身片 (第 7 図 8) は、古墳時代後期前葉頃とみられる。SP13 は調査区北西部で検出した。黒褐色埋土中に炭化物を含む。SP16 は調査区北西端部で検出したもので、断面に柱痕跡がみつめられる。これら柱穴の時期は、出土遺物は須恵器碎片であることから、基本的に古墳時代後期とみて良いと思われる。

**遺物包含層出土遺物** (第 7 図 9～13) 基本層 2、3 層出土遺物のうち、図化し得たものについて紹介する。9～13 はすべて須恵器である。

9 は 3 層出土の低脚高杯の脚部片であり、3 方に円形の透かしがみつめられるタイプであろう。10 は 2 層出土の杯蓋つまみ部分である。形状から奈良時代以降とみられる。11～13 は 3 層出土の杯蓋・杯身類である。3 層出土須恵器については概ね 6 世紀前葉頃とみて良いと思われる。

### 3. まとめ

今回検出された古墳時代後期前葉を中心とした集落関連遺構は、付近における既往の調査成果 (「本町遺跡第 28 次調査」2003 年、「本町遺跡第 33 次調査」2006 年) も同様の時期を主体とした遺構が確認されていることから、これらは一連の集落とみてよいだろう。調査地一帯は遺構が重複するケースも比較的少なく、遺構の密度もやや希薄であることから、集落の縁辺部とみられる。

今回の調査は、今後、古墳時代後期段階における本町集落西部の集落景観、ならびにその範囲を復元するうえで、貴重な成果であったといえよう。

### 3. まとめ

## 第Ⅲ章 桜塚古墳群第13次調査

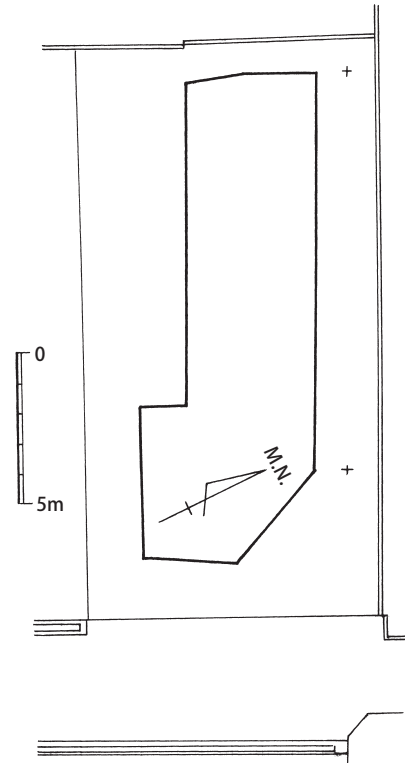
### 1. 調査の経緯

今回の調査地は豊中市南桜塚1丁目246-10に所在する。平成28年5月2日に提出された土木工事等による埋蔵文化財発掘の届出に基づき、6月9日に確認調査を実施した結果、地表下約30cmで基盤層及び遺構を検出した。建築工事では地盤改良を計画していたため、遺構の損壊は免れず、協議の結果、本発掘調査を実施する運びとなった。本発掘調査は平成28年7月25日～8月25日にかけて、88.75㎡を調査対象範囲として実施した。

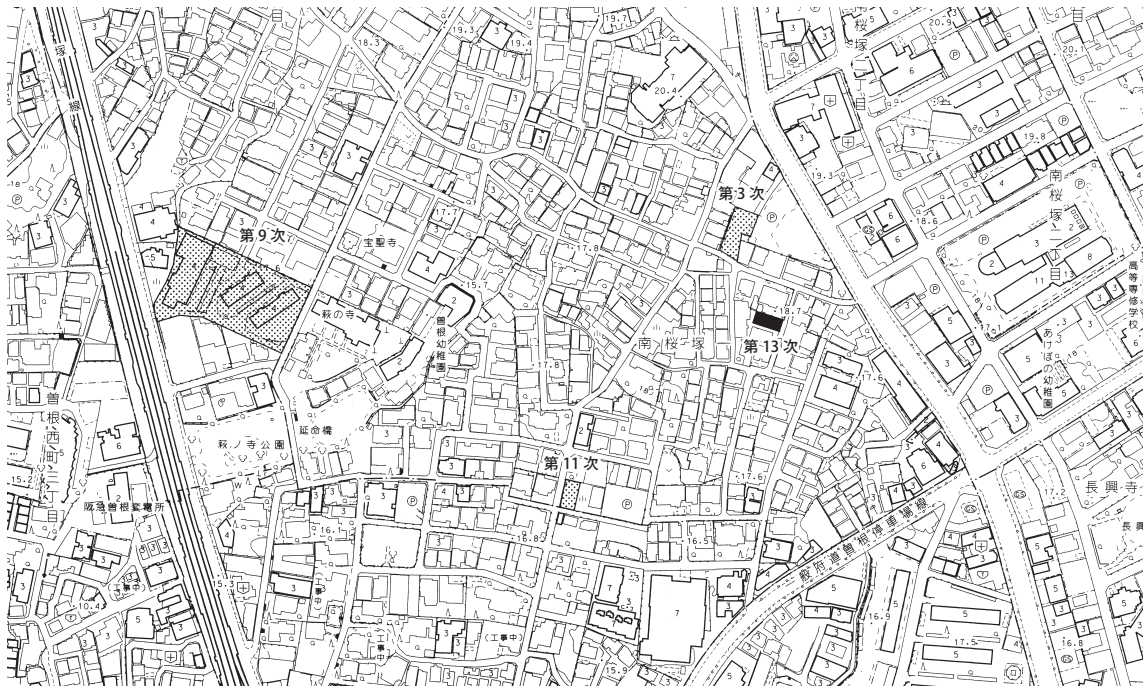
### 2. 調査の成果

#### (1) 遺跡の概要

桜塚古墳群は、通称豊中台地と呼ばれる中位段丘の平坦面に立地し、猪名川の氾濫原である西方、大阪湾に通じる南側の低湿地を望見する位置を占める。これまでに行われてきた多くの調査から、4世



第8図 調査範囲図 (1:250)



第9図 調査地位位置図 (1:5,000)

## 2. 調査の成果

紀半ばから5世紀末にかけての周辺地域最大の古墳群であることがわかっており、首長系列であると推定される古墳から、鉄製の武器・武具をはじめとする豊富な副葬品が出土することでもよく知られてきた。

明治期に描かれた絵図では36か所に古墳状の高まりが認められていたが、昭和初期の区画整理事業で大半が消滅し、現存する大石塚古墳・小石塚古墳・大塚古墳・御獅子塚古墳・南天平塚古墳の5基のみが桜塚古墳群として国の史跡に指定されて保護を図られている。

しかしながら、市街地化が進んだ現在においても、明治期の絵図に描かれていない古墳が検出されることがあり、当該調査までに10基の古墳が新たに確認されている。

### (2) 基本層序

今回の調査地の基本層序は、浅黄色系シルトを基本とする堅緻な基盤層及び遺構埋土以外は、ほぼ近・現代の攪乱土で構成されている。部分的に住宅地として開発される以前の耕作土（にぶい黄褐色系砂質シルト）が残存しているが極めて薄く、基盤層が形成されて以降の土地利用について、堆積層から推定できることは少ない。

### (3) 検出した遺構と遺物

今回の調査区で検出された遺構は溝2条で、それ以外の土坑や建物に伴う柱穴等は全く検出されなかった。以下に溝2条について該述する。

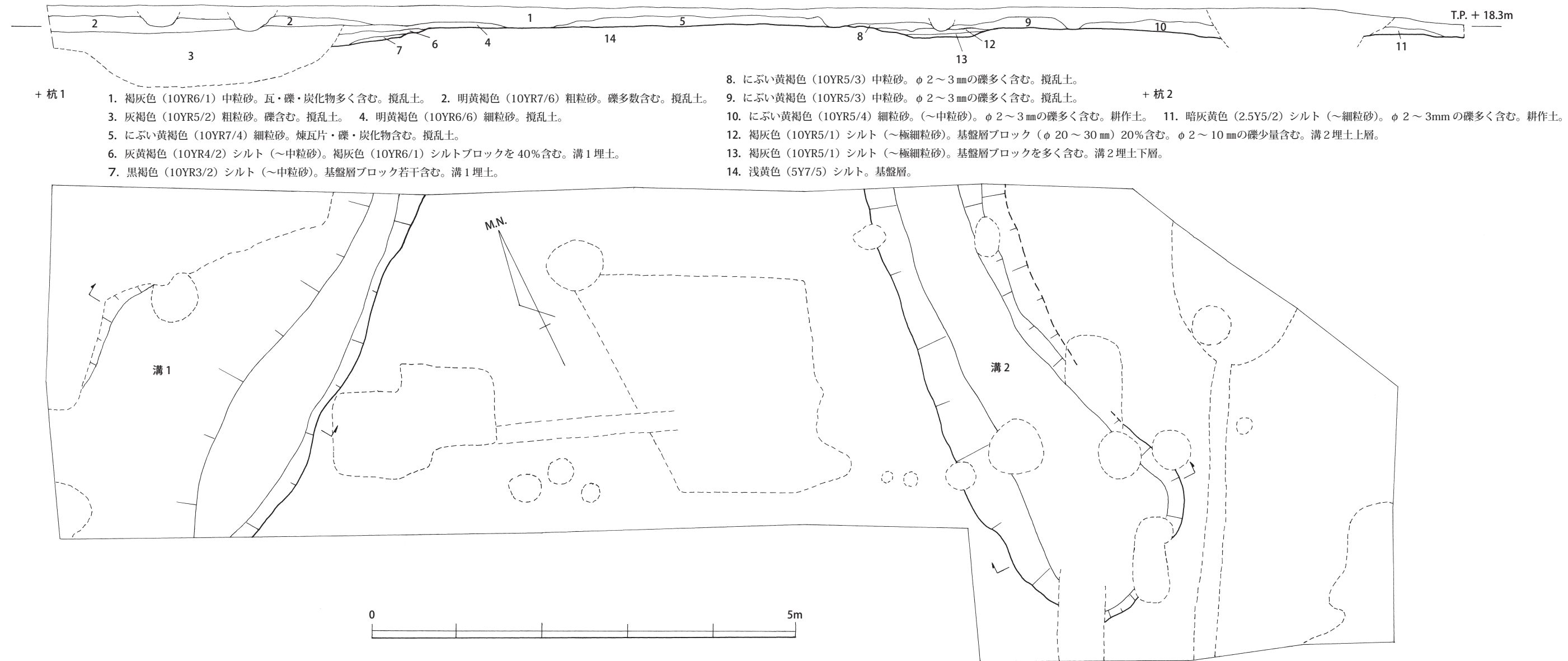
**溝1** 溝1は調査区の西半部で検出されたが、後世の攪乱によって北西側の肩部をほとんど滅失している。検出した長さは約4.5mで幅は約2.8m、遺存した深さ約15cmを測る（第10図）。全体として底面はなだらかで平坦な様相であり、東肩部斜面にもやや平坦な部分がある。埋土は褐灰色系のシルトで構成され、比較的軟質である（第11図）。

溝1は外形が直線的であり底面が平坦であること、周辺でも同様の溝が古墳の周濠として認知されていることから、ここでも古墳の周濠と考えて大過なкаろう。調査区の南半部には対になる溝が検出されていないことから、溝1を南辺として北側に広がる方墳であろうと推定される。過去に桜塚古墳群内で検出された方墳の規模から、一辺20m程度の小規模古墳であろうと考えられるが、ある程度正確な規模の推定については、隣接地での調査成果を待ちたい。

掘削時期については埴輪など古墳時代の遺物が出土していないので不明であるが、開削時から10cm程度土砂が堆積した後に溝の再利用が行なわれ、13世紀代の瓦器片が遺存している（第12図3・4）。古墳がその機能を失ってから、鎌倉時代に入って、溝底部に徐々に堆積した軟質のシルト層を耕作のために採取していた可能性も考えられる。

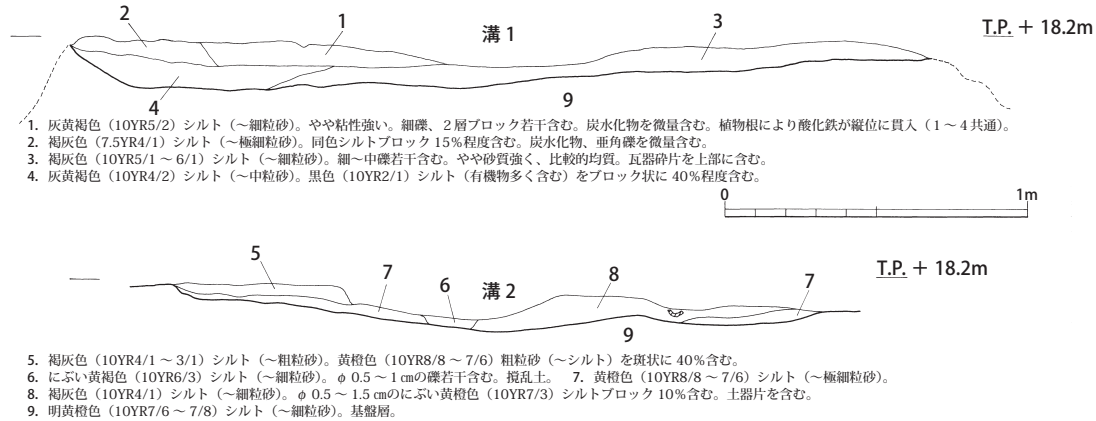
**溝2** 溝2は調査区の東半部で検出されたが、後世の削平が顕著で外形が明確ではない部分がある。検出した長さは約5.6mで幅は約2.2m、遺存した深さ約10cmを測る（第10図）。

溝の底面には若干凹凸があり、やや南東方向に湾曲しながら終息している。埋土は褐灰色系のシルトで、にぶい黄橙色系の基盤層小ブロックを含んでいる（第11図）。



第10図 調査区 平面・断面図 (1:50)





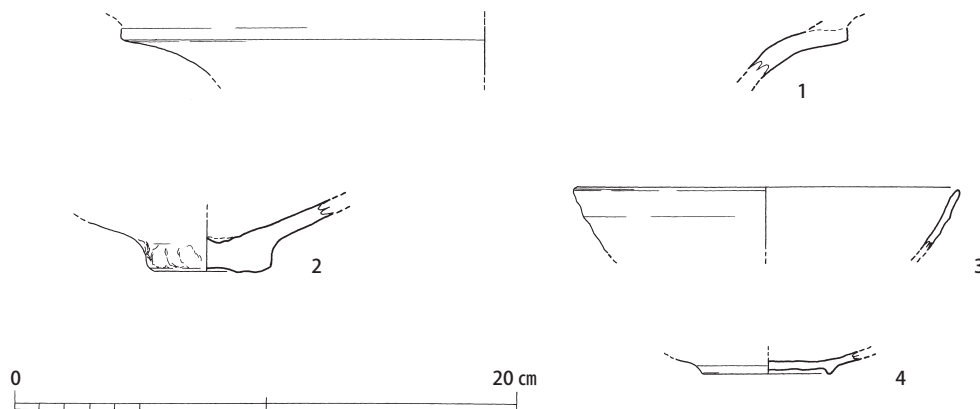
第11図 溝1・溝2断面図 (1:25)

南東端部の底面付近で、土器片が集中して検出された。複合口縁壺の口縁屈曲部や、壺底部などがあり、弥生後期後半の様相を示している (第12図1・2)。複合口縁壺は外反する口縁上半部が剥落しており、図示した破線よりもう少し傾斜が少なく上方へ伸びる可能性もある。溝埋土上部の削平が顕著であるが、南東端部に集中した出土状況や器種等から勘案して、単なる廃棄行為とは考え難い。

溝の全体像が不明であるため、また周辺でも当該期の遺構・遺物が確認されたのは初めてであり、溝の機能、たとえば周溝墓等に伴うものかどうかを現段階で推定する根拠が乏しいので、周辺での資料の蓄積を待って判断したい。

### 3. まとめ

今回の調査では、弥生時代後期後半の溝2および古墳周濠と推定される溝1を検出した。前者は埋蔵文化財包蔵地である桜塚古墳群とその周辺で初めて検出されたもので、豊中台地南部における弥生時代の生活空間の拡がりを想起させる唯一の資料として貴重なものである。今後、周辺の調査では当該期の遺構・遺物の検出に留意する必要がある。



第12図 出土遺物 (1:3)

### 3. まとめ

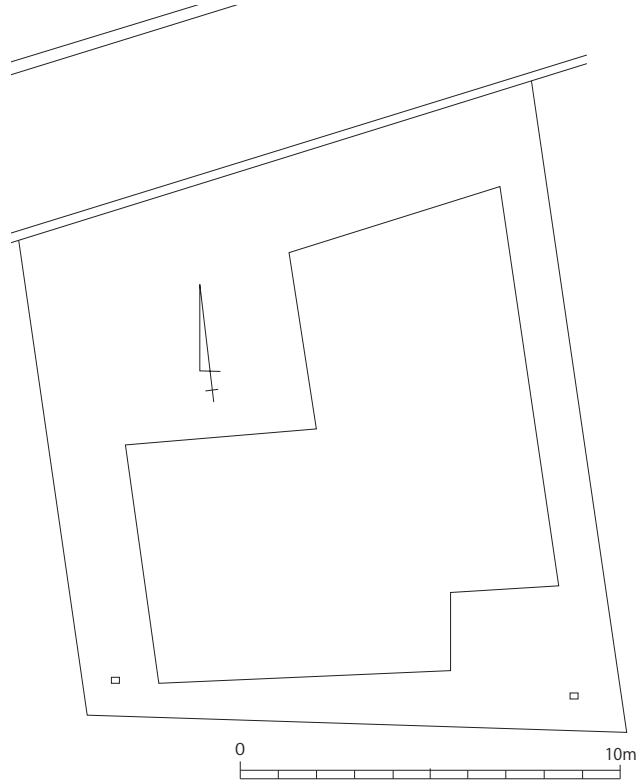
また、後者は築造時期や規模に不明な点が残るものの、明治期の絵図に描かれた古墳数に近年の調査で検出された古墳数を加え、桜塚古墳群第 47 号墳とした。今後は、桜塚古墳群を構成する首長系列墳以外の小規模古墳が、時間的、空間的にどのように築造されていったのかを知る資料の一つとして活用されるものである。



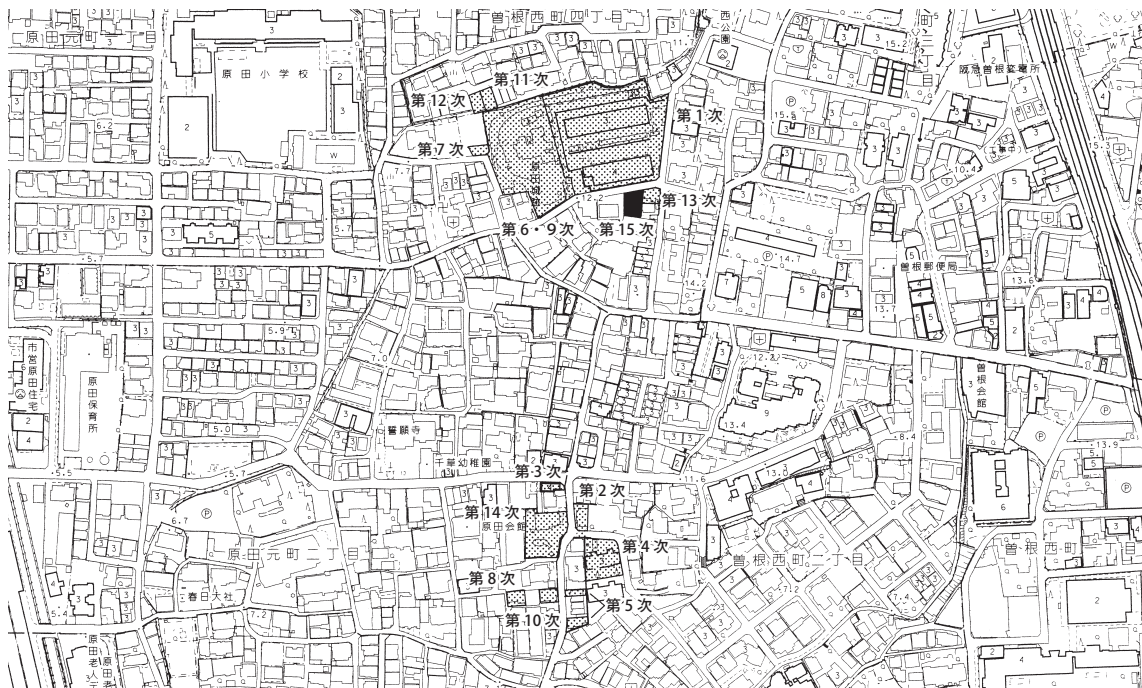
## 第Ⅳ章 原田遺跡第15次調査

### 1. 調査の経緯

今回の調査地は曾根西町4丁目27-1、27-5に所在する。平成28年9月21日に提出された土木工事等による埋蔵文化財包蔵地の発掘届出に基づいて、10月3日確認調査を実施したところ、地表下40～50cmで基盤層とその直上面より遺構を検出した。一方、予定建物建築に伴う掘削深度は一部地表下90～110cmに達することから、現行の計画の場合、遺構破壊は免れないことが判明した。このことについて事業主と協議の結果、建築計画に変更はなく、よって緊急の本発掘調査を実施することになった。現地調査は平成28年11月1から12月15日にかけて実施し、12月10日に周辺住民を対象とした現地説明会を実施した。調査面積は128㎡であり、廃土スペース確保のため、場内反転による調査を行った。



第13図 調査範囲図 (1:200)



第14図 調査地位置図 (1:5,000)

## 2. 調査の成果

### (1) 遺跡の概要

原田遺跡は豊中台地南西端部の一角に立地する集落遺跡である。同遺跡は昭和 10 年（1935 年）に発見され、既往の調査では弥生時代後期～古墳時代前期の集落関連遺構のほか、平安時代の掘立柱建物・土坑も確認されており、これは隣接する大形掘立柱建物が検出された曾根遺跡との関連が注目される。これに加えて当該遺跡は中世六車郷原田村に比定され、中世の集落関連遺構も確認されている。

今回の調査地は原田遺跡北部に所在し、一帯は中世城館跡である原田城跡（北城）の一角にもあたる。原田城が文献史料（『夜久文書』）に初登場するのは 15 世紀後半代であり、応仁・文明の乱の際に東軍（細川方）に属したことが知られる。原田城は地元の有力国人原田氏の居城であったとみられている。近世・近代に編纂された地誌・地籍図の検討から南北に二城あったことが判明しており、今回は北城主郭部から南東にやや外れた位置に相当する。主郭部は丘陵先端に約 50m 四方で形成され、内側には現在でも高さ 1.5 ～ 2.8m、幅 5 ～ 10m の土塁が残存している。主郭部分の調査（第 6 次調査）では 14 世紀前半～ 16 世紀後半の遺構・遺物が確認されている。その東側には南北 140m、東西 120m の城域を示すように「ヨ」字状の外堀が巡らされている。16 世紀代後半、織田信長軍による摂津国守護荒木村重追討の際に大規模な改変がなされ、なかでも内堀は幅約 16m、深さ 8m にまで巨大化させたことが、第 1 次調査で判明している。なお、原田城跡（北城）主郭部分は昭和 62 年、市史跡の指定を受けている。

### (2) 基本層序

調査地の基本層序は以下の 3 層で構成される。

第 1 層：近現代の攪乱・盛土。

第 2 層：灰黄褐色 (2.5Y4/2) 極細粒砂。礫 (～ 15mm) 多く含む。近代以降の整地土。

第 3 層：褐灰色 (10YR4/1 ～ 5/1) 細粒砂。土器碎片をわずかに包含する。調査区西壁面断面の 37 層に相当し、堀は当該層から掘り込まれていることが断面観察からうかがえた。よって基本層第 3 層は 15 世紀代あるいはそれ以前に形成されたと考えられる。

第 4 層：明黄褐色 (10YR2/6) シルト。粘性強。礫 (～ 20mm) 多く含む。当調査区の基盤層。

今回報告する遺構は、全て 4 層上面において検出されたものである。調査は重機により 1 ～ 3 層を除去し、4 層（基盤層）上面における遺構検出作業から人力による掘削を行った。

### (3) 検出した遺構と遺物

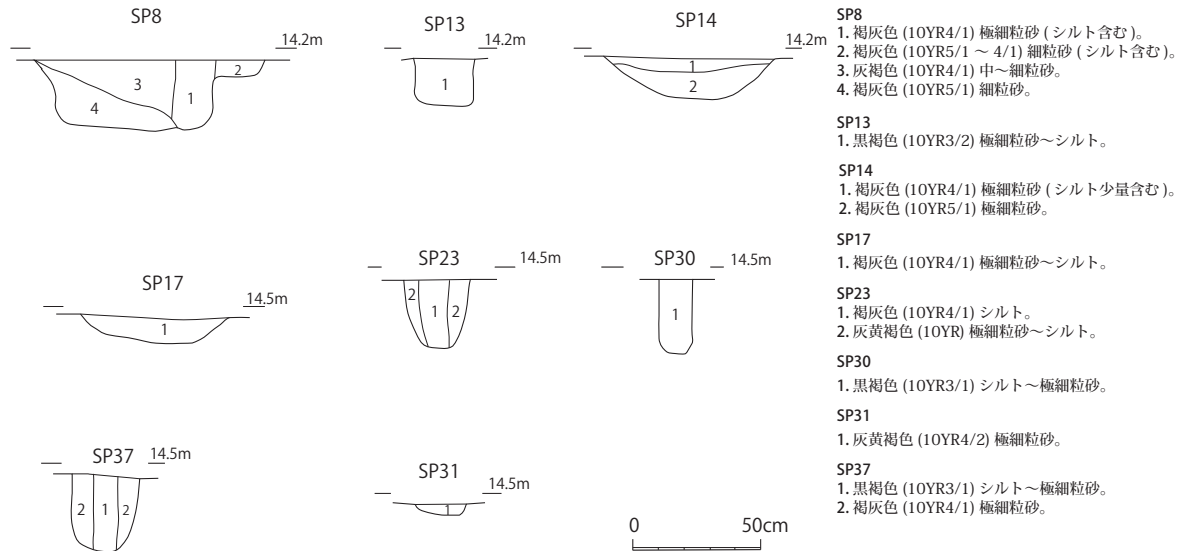
今回検出した遺構は土坑 3 基、溝 4 条、柱穴 (SP)38 基、そして原田城跡（北城）に伴う堀であった。

1. 現代の盛土。
2. 灰黄褐色 (2.5Y4/2) 極細粒砂。礫 (5 ～ 10mm) 少量含む。近代以降の整地土。基本層序第 2 層。
3. 褐灰色 (10YR4/1) 極細粒砂。弥生土器碎片を微量含む。溝 4 埋土。
4. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細粒砂に基盤層ブロック (～ 2cm) 約 10% 含む。土坑 3 埋土。
5. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細粒砂。基盤層ブロック (～ 2cm) を微量含む。土坑 3 埋土。
6. 灰黄褐色 (10YR4/1) ～ 黒褐色 (10YR3/2) 極細粒砂に基盤層ブロック (5 ～ 10mm) を少量含む。土坑 3 埋土。
7. オリーブ黒色 (5Y3/2) 極細粒砂。基盤層ブロック (～ 2cm) を少量含む。土坑 3 埋土。
8. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂。基盤層ブロック (～ 10mm) 約 10% 含む。SP21 埋土。
9. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 細粒砂に基盤層ブロック (～ 5mm)、礫 (～ 10mm) を少量含む。SP21 埋土。
10. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂に基盤層ブロック (5 ～ 10mm)、礫 (～ 15mm) を少量含む。溝 2 埋土上層。
11. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細粒砂。礫 (～ 10mm) を多く含む。軟弱。溝 2 埋土中層。
12. 褐灰色 (10YR) 極細粒砂。マンガン粒が斑状に多くみられる。軟弱。溝 2 埋土下層。
13. 褐灰色 (10YR4/1) ～ 黒褐色 (10YR3/1) 粘性シルト。マンガン粒が斑状にみられる。軟弱。溝 2 埋土最下層。
14. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細粒砂。礫 (～ 10mm) 少量含む。溝 2 埋土。
15. 灰黄褐色 (10YR5/2) 極細粒砂 (～シルト)。基盤層ブロック (～ 10mm) を少量含む。軟弱。溝 2 埋土。
16. 褐灰色 (10YR5/1) 粘性の強い中粒砂。礫 (～ 10mm) 約 10% 含む。
17. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性のある細粒砂に基盤層ブロック・礫 (～ 20mm) を各約 15% 含む。
18. 褐灰色 (10YR4/1 ～ 5/1) 粘性の強い細粒砂。基盤層ブロック (5 ～ 10mm) 約 10%、土師器碎片含む。
19. 褐灰色 (10YR6/1) 粘性のある細～中粒砂。土師器碎片を微量包含。
20. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性のある細粒砂。基盤層ブロック (～ 2 cm) 礫 (～ 3 cm) を各約 5% 含む。
21. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中～細粒砂。礫 (～ 15mm) を約 15% 含む。瓦器・須恵器・土師器・弥生土器極碎片をわずかに含む。堀の最終段階の埋戻土。
22. 褐灰色 (10YR5/1) 粘性のある粗～中粒砂。礫 (～ 3 cm) を多く含む。土師器碎片を微量包含。
23. 褐灰色 (10YR5/1 ～ 4/1) 粘性の強い粗～中粒砂。基盤層ブロック (～ 1cm) を約 5% 含む。土師器碎片を微量包含。
24. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗～中粒砂。礫 (～ 2cm) を少量含む。
25. 灰黄褐色 (10YR4/2) 中粒砂。礫 (～ 15mm) 約 10% 含む。土師器碎片を微量包含。
26. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性のある中～粗粒砂に基盤層ブロック (～ 1cm) 5%、礫 (～ 5 ～ 10mm) を約 10% 含む。
27. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂。礫 (～ 20mm) 約 15% 含む。
28. 褐灰色 (10YR5/1) 粘性のある中～粗粒砂。礫 (5 ～ 15mm) 約 15% 含む。
29. 灰黄褐色 (10YR4/2 ～ 5/2) 粘性のある中粒砂。礫 (～ 15mm) を少量含む。
30. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗～中粒砂。礫 (5 ～ 10mm) を約 15% 含む。
31. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性のある粗粒砂。礫 (5 ～ 10mm) を約 10% 含む。
32. にぶい黄褐色 (10 YR5/3) 粗～中粒砂。礫 (5 ～ 10mm) 約 20% 含む。
33. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘性の強い粗～中粒砂。基盤層ブロック (5 ～ 10mm) 約 10%、礫 (5 ～ 10mm) 約 15% 含む。
34. 褐灰色 (10YR4/1) 粘性の強い粗粒砂。礫 (～ 2cm) 約 20% 含む。無遺物。
35. 褐灰色 (10YR5/1) 粘性のある中～粗粒砂。礫 (5 ～ 20mm) 約 15% 含む。基底面直上で検出された小溝の埋土。
36. 褐灰色 (10YR5/1) 粘性のある中～粗粒砂。礫 (5 ～ 20mm) 約 15% 含む。基底面直上で検出された小溝の埋土。
37. 褐灰色 (10YR4/1 ～ 5/1) 細粒砂。土師器碎片を包含する。
38. 灰黄褐色 (10YR5/2) 極細粒砂。礫 (～ 10mm) を約 10% 含む。土器極細片を微量包含する。
39. 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂 (シルト含む)。基盤層ブロック (5 ～ 10mm)、礫 (5 ～ 15mm) を約 10% 含む。堀埋土。
40. 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂 (シルト含む)。礫 (～ 15mm) 約 10% 含む。土器碎片微量包含する。
41. 灰色 (N6/) 粘性のある中粒砂に基盤層ブロック (5 ～ 10cm) 約 25 パーセント含む。礫 (～ 15mm) 約 10% 含む。
42. 灰色 (N5/) シルト。(中粒砂も若干含む)。礫 (～ 10mm) 少量含む。堀基底面直上層。堀の埋土中最多の遺物出土層。
43. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細～中粒砂 (シルト含む)。基盤層ブロック (～ 20mm) 約 15%、礫 (～ 5 ～ 20mm) 約 5% 含む。
44. 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂 (シルト含む)。基盤層ブロック (5 ～ 10mm) 約 10%、礫 (～ 20mm) 約 10% 含む。
45. 褐灰色 (10YR5/1) 細～極細粒砂。基盤層ブロック (～ 10mm) 約 5% 含む。SP2 埋土。
46. 褐灰色 (10YR4/1 ～ 5/1) 極細粒砂。基盤層ブロック (～ 15mm) 約 15% 含む。SP2 埋土。
47. 褐灰色 (10YR5/1) シルト～極細粒砂。礫 (～ 10mm) 約 10% 含む。
48. 褐灰色 (10YR5/1) 中～粗粒砂。礫 (5 ～ 10mm) 約 10% 含む。
49. 褐灰色 (10YR4/1) 細～中粒砂。礫 (5 ～ 10mm) 約 5% 含む。
50. 褐灰色 (10YR5/1) 粘性のある細～中粒砂。基盤層ブロック (5 ～ 20mm) 約 10% 含む。礫 (～ 10mm) 約 5% 含む。
51. 褐灰色 (10YR5/1 ～ 4/1) 粘性のあるシルト～極細粒砂。基盤層ブロック (～ 10mm)、礫 (～ 15mm) 各約 10% 含む。土器碎片を含む。堀基底面直上層。
52. 褐灰色 (10YR6/1 ～ 4/1) 細～中粒砂。礫 (5 ～ 10mm) 約 15% 含む。
53. 褐灰色 (10YR4/1) 粘性のある細粒砂。堀基底面直上検出された小溝の埋土。
54. 明赤褐色 (10YR6/6) 粘性シルト。礫 (～ 2cm) を多く含む。基盤層。



第 15 図 調査区 平面・断面図 (1 : 80)





第16図 柱穴・ピット断面図 (1:30)

以下では、主要な遺構・遺物について報告する。

**土坑1** 調査区西半部で検出した東西幅 1.1m、南北幅 1.6m、深度約 20 cmの平面楕円形の土坑である。基底面に向かってゆるやかに傾斜するもので、基底面の南東部に直径約 0.5m 程度のピット状のものがみとめられる。埋土中から弥生土器碎片が出土している。

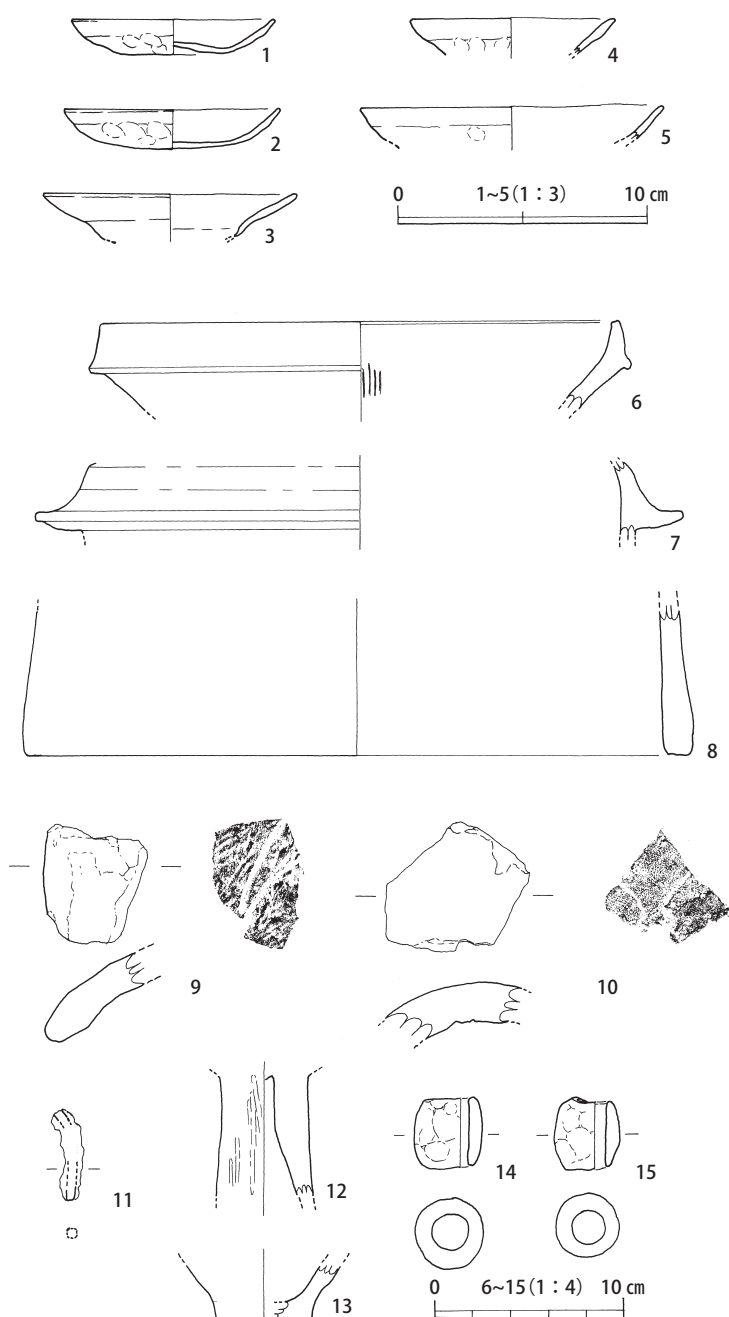
**土坑2** 調査区東半部で検出した。検出長約 2.5m、検出幅 0.4 ~ 0.6m、深度 5cm 前後の浅い土坑である。埋土中から弥生土器碎片が出土している。

**土坑3** 調査区東半部の北端で検出した。溝2と近接する位置にあり、同一遺構の可能性も考えられたが、埋土の特徴が異なることから別遺構扱いとしている。埋土は灰黄褐色極細粒砂に基盤層ブロックを含むものを主体としており、溝2埋土と比較してしまりのあるものである。埋土中からは弥生土器碎片が出土している。

**溝2** 調査区北東端部において部分的に検出されたもので、東西方向 2.4m 以上、幅 0.5m 以上、深度 0.45m 以上をはかるものの、調査区北端部検出ということもあり幅、深度ともにまだまだ拡大する見込みである。埋土は灰黄褐色～にぶい黄褐色細粒砂を主体とし、ブロック土を含むものであるが、しまりが弱く脆い。溝2は堀と平行な位置関係にあることや、規模的にみても大形である可能性がある。埋土中から出土遺物はみとめられなかったため、詳細な時期については不明であるが、弥生時代後期の SP21 を切っていることから、溝2はそれ以降の時期ということになる。

**堀** 調査区の中央付近において、ほぼ直角に曲がる堀を確認した。東西方向の幅約 5.0m、南北方向の幅は片側 (西側) のみの肩部検出のため不明であるが、5.7m 以上、深度 0.6 ~ 0.7m であり、現段階においては東西方向と南北方向とで堀幅が大きく異なるという検出状況である。平坦な基底面に向かっての傾斜は比較的ゆるやかであり、これは第1次調査検出の堀2 (第18図) の急斜面かつ深度 2m と比較すると対照的である。堀に伴う土塁の痕跡は認められなかった。基底面は段丘礫層に到達した時点で掘削を停止した可能性が高い。堀の滞水状態については、一時的な状況を除いてはそのような痕跡はみとめられないため、空堀であったことがうかがえる。基底面直上は基本的に平坦面であるが、平坦面と傾斜面の境目付近と平坦面中に幅 10 ~ 15 cm、深度数cm程度の小規模な溝が合計

## 2. 調査の成果



第 17 図 出土遺物 (1 : 4 ※ 1 ~ 5 は 1 : 3)

3 条確認できる。埋土は 35、36、53 の各層に相当する。これらは堀の方向と平行であり堀掘削時の何らかの目的を果たしていたと考えられるものの正確な機能については不明である。堀は人為的に埋め戻されているが、一気にすべてを埋め戻すのではなく、例えば完全に埋め戻される直前段階に 17・18 層を埋土とする小規模な東西方向の溝が一定期間機能していたことなど、埋没するまでにいくつかの段階が存在したようである。

出土遺物はすべての埋土において非常に少なく、しかも細かな碎片が大半であった。堀埋土のうち基底面直上の灰色～褐灰色の粘性のあるシルト (42・51 層) を除くと基本的に基盤層ブロックを含む埋土であることから、人為的に埋め戻されていることがわかる。25～30 の各層は埋戻し作業の単位である可能性がある。埋土中からの出土遺物は弥生後期～中世段階までの時期幅を有し、

出土量はわずかな量かつ磨滅したものが大半であることから、埋没時期は15世紀代以降であり、より正確な時期は今回の調査では不明である。断面観察によれば堀が完全に埋没した後も堀部分は若干凹地になっていた状況がうかがえる。

堀出土遺物（第17図1～10）はすべて基底面直上付近からの出土であった。1～5は土師器小皿である。1は口縁部直径8.0cm、器高1.4cm、外面に押圧痕が残る。2は口縁部直径が8.4cmに復元され、器高1.6cmである。外面に押圧痕が残る。3は口縁部直径9.8cm、残存高1.7cmである。4は口縁部直径8.0cm、残存高1.4cmである。外面に押圧痕がみとめられる。5は口縁部直径11.8cm、残存高1.3cmである。1～5は概ね15世紀代までのものとみられる。6は備前焼摺鉢である。7は瓦質羽釜の鰐部分である。鰐部分の直径は34cmに復元される。8は瓦質の井戸枳材用土管であり、底部の直径は約35cmに復元される。天地が逆である可能性もある。9・10はいずれも丸瓦片である。9は碎片ではあるが凹面に布目痕を残す。堀出土遺物の時期は概ね15世紀代までの特徴を示す。今回の堀は、主に15世紀代に堀として機能していたことが出土遺物（第17図1～10）からうかがえる。

**柱穴（SP）** 堀の基底面を除くほぼ全域から検出している。柱穴の時期については、埋土中から弥生土器碎片が出土すること、SP31のように堀に削平されている柱穴がみとめられることから、大半は弥生時代後期～終末期と考えられる。

**SP8** 調査区西部で検出された直径約70cm、深度18cmをはかる大形の柱穴である。今回の調査で最大の直径を有し、建物の一部を構成したとみられるが、調査区内で同規模の柱穴は存在しない。

**SP13** 調査区西半部、堀肩口付近で検出した。直径18cm、深度約13cmをはかる平面円形であり、埋土は黒褐色極細粒砂～シルトである。後述のSP30と埋土の特徴が似ており、両者は堀肩口付近検出という点で共通する。埋土中に遺物はみとめられなかった。

**SP14** 調査区南西部で検出した。直径約50～60cm、深度16cm程度をはかり、現在平面五角形だが元の平面形は隅丸方形であったと考えられる。断面形状が基底面にむかってゆるやかな傾斜であることから、SP14は柱穴でなく土坑であるかもしれない。埋土中から弥生土器または土師器碎片が出土している。

**SP17** 調査区北東隅付近で検出した。SP14と同様に傾斜がゆるやかな断面形態であることから柱穴でなく土坑であるかもしれない。埋土中から弥生後期土器碎片が多数出土した。埋土は上下2層で構成され、特に上層（1層）には弥生土器碎片だけでなく、炭化物も多く含むものであった。調査区内でSP17と同様の特徴を有するSPはみとめられない。外面にタタキを施した甕片が出土している。

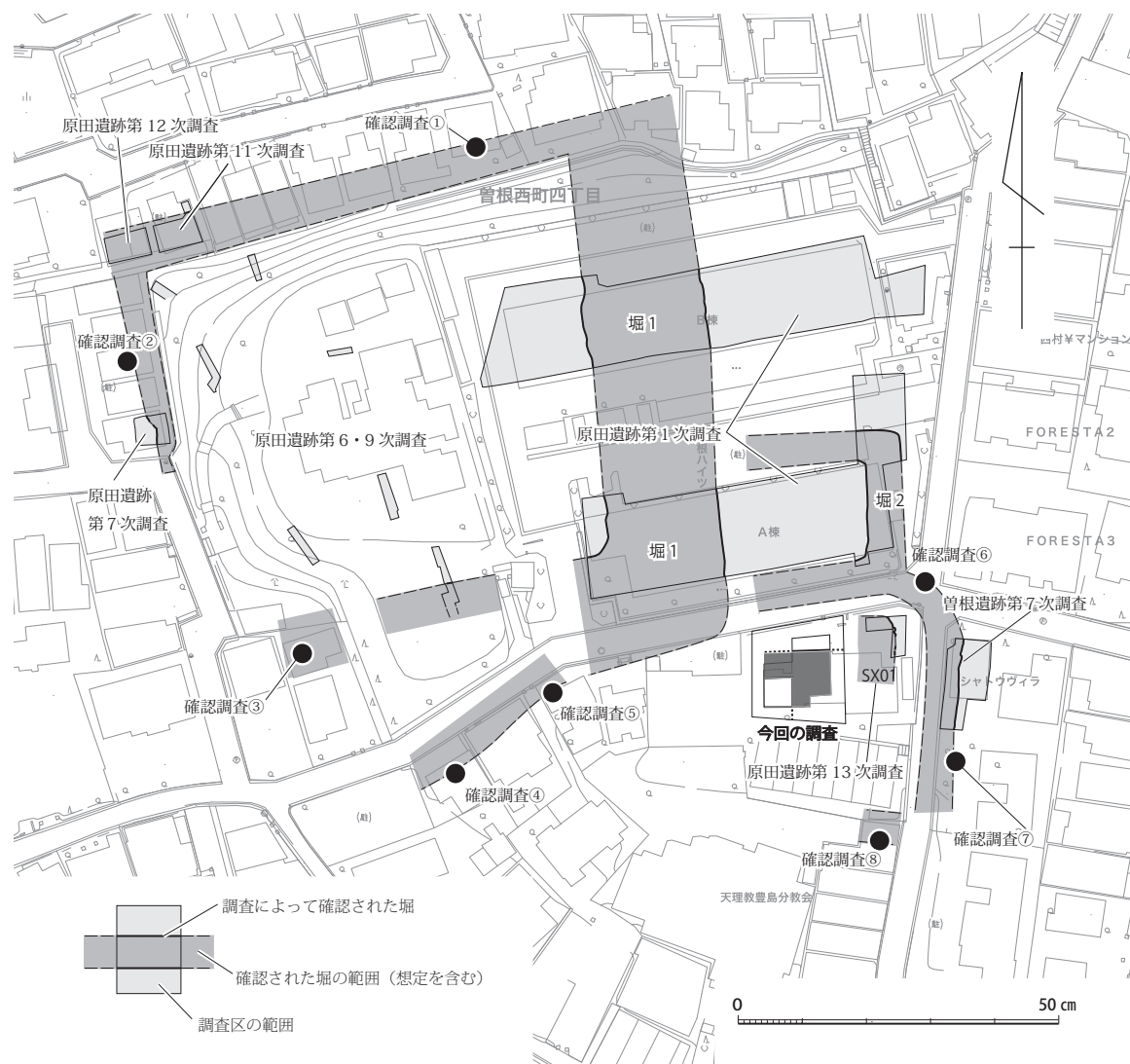
**SP23** 調査区北部で検出した平面円形の柱穴であり、検出幅約25cm、深度21cmをはかる。断面観察により柱痕がみとめられる。埋土中から弥生土器碎片が出土した。

**SP30** 調査区東半部の堀肩口付近で検出した。直径は12cmと小規模であるが、深度は25cmを有する。埋土の黒褐色極細粒砂～シルトはSP13のものと特徴が似る。SP30の規模や検出位置からして、柵または杭状のものを設置した痕跡であった可能性もある。埋土中に遺物はみとめられなかった。

**SP31** 調査区東半部、堀の段部分で検出した平面円形の柱穴である。検出幅は約15cm、深度はわずか4cmである。この浅い深度については堀掘削の影響によってSP31上面部分が削平されたためとみられる。埋土中から弥生土器碎片が出土している。

**SP37** 調査区北端部で検出した平面円形の柱穴であり、検出幅約28cm、深度20cmをはかる。断面観察により柱痕がみとめられる。SP30と埋土や形状の特徴が似る。埋土中から弥生土器碎片が出

### 3. まとめ



調査	遺構	概要	出典
原田遺跡第1次調査	堀1・堀2	堀1は16世紀後半の荒木村重攻めの際に拡張した堀と考えられる。堀2は16世紀後半の遺物が出土した。この調査では、堀跡のほか15～16世紀の遺構を確認している。	年報VOL.4
原田遺跡第6次調査		主郭部分の調査。主郭の南側で堀を確認した。また、曲輪内から土塁状の遺構など14世紀前半以降の遺構・遺物を確認した。	概報平成16年度（2004年度）
原田遺跡第7次調査		外堀の一部を確認した。未報告。	ニュースNo.23（1996年度）
原田遺跡第11次調査	落込み	堀からは弥生・古墳時代、近世以降の遺物が出土した。なお、この堀は水路である可能性が指摘されており、遅くとも18世紀中頃には北東から西へ流れる水路であった。	概報平成23年度（2013年度）
原田遺跡第12次調査	落込み	堀からは弥生時代～近現代の遺物が出土し、底部には木杭列が見られた。なお、この堀は水路である可能性が指摘されており、遅くとも18世紀中頃には北東から西へ流れる水路であった。	概報平成23年度（2013年度）
原田遺跡第13次調査	SX01	埋土からは弥生時代・古代・13世紀前半の遺物が出土した。	概報平成27年度（2015年度）
曾根遺跡第4次調査	落込み1	近世以降に埋没した大型の落込みの一部を検出した。掘削時期や形態は不明であるが、原田城跡（北城）関連遺構の可能性も考えられる。（※第18図の範囲外）	概報平成7年度（1995年度）
曾根遺跡第7次調査	外堀	堀の埋土最下層から16世紀末の陶器が出土した。	概報平成14年度（2002年度）
確認調査①		2003年に行った確認調査で、堀の可能性のある、南に落ちる落込みを検出した。	
確認調査②		2003年に、原田遺跡第7次調査に先立つ確認調査で、堀を検出した。	
確認調査③		2012年に行った確認調査で、堀の埋土の可能性のある層を確認した。	
確認調査④		1999年に行った確認調査で、堀の可能性のある、北に落ちる落込みを検出した。	
確認調査⑤		2008年に行った確認調査で、堀の可能性のある、北に落ちる落込みを検出した。	
確認調査⑥		2002年に行った工事立会により、堀の可能性のある、南に落ちる落込みを検出した。	
確認調査⑦		2001年に行った、曾根遺跡第7次調査に先立つ確認調査で、堀を確認した。	
確認調査⑧		1994年に行った確認調査で、堀の可能性のある、北に落ちる落込みを検出した。	

※出典欄の「年報」は『豊中市埋蔵文化財調査年報』を、「概報」は『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要』を、「ニュース」は『文化財ニュース豊中』を、それぞれあらわす。

第18図 調査区周辺における検出遺構図（※文献1第28図を一部改変して作成）



土している。

**その他の遺物** 11はSP18出土の鉄釘片である。全体に錆膨れがみとめられるが、残存長は5cm、一片約5mmの断面四角形を呈する。12～15は遺構面精査中に出土したものである。12は弥生土器高杯脚部片であり、外面には縦方向のミガキが確認できる。13は弥生土器壺の底部とみられる。内外面ともに磨滅が著しく調整は不明である。14・15は手づくね成形による土錘である。今回図化しえなかったものも含めると計3点出土している。すべて調査区西半部からの出土であった。14・15は全長ともに3.7cm、胴部最大幅はそれぞれ3.8、3.5cm、孔部分の直径はそれぞれ2.0、1.8cmとやや大きめである。色調は浅黄色で全体的に粒子が細かく精良な粘土が使用されている。外面には指オサエがみとめられる。

### 3. まとめ

今回発見された15世紀代とみられる堀は、織田信長が活躍する時代からはおよそ一世紀遡る時期のものであり、原田城が文献史料(『夜久文書』)に初出する15世紀後半頃に相当する。したがって、原田城が誕生した頃のように、または16世紀後半段階で原田城(北城)が大きく改変されるよりも以前の状況を伝える遺構であったといえよう。そして原田遺跡第1次調査検出の堀1・堀2はいずれも16世紀後半に機能したとされるが、今回の堀はこれらと比較すると緩やかな形状であり、時期差はあるものの既往の堀との形態差もみとめられた。次に、原田城跡の堀の巡り方についても、第18図に示すとおり、今回推定外の位置から発見されたことにより、原田城跡(北城)の構造についても再検討する必要が出てきた。今回発見の堀はどのような位置付けが可能であろうか。今回の調査地南側～南西側一帯に存在する「二ノ丸」という字名は、今回検出の堀跡の性格を推察する上で参考にすることができる。想像を逞しくすれば堀は「二ノ丸」一帯の施設を取り囲んでいたような検出状況とみることができないだろうか。その一方で、隣接する第13次調査地で検出された落ち込みSX01についても、これが原田城跡(北城)に伴う外堀ということになれば、今回発見の堀との時期的・機能的関連性についての検討を要する。

一方、調査区内から万遍なく確認された弥生時代後期を中心とする柱穴群については、東接する曾根遺跡の弥生時代後～終末期集落と一連である可能性が高いことから、曾根遺跡の当該時期集落が今回の調査地にまで及んでいることが確認された。

限られた調査範囲で堀のような巨大な遺構の動態を見極めていく作業は困難ではあるが、小規模とはいえ各調査地点における原田城跡(北城)に関する知見を積み重ねていくことが、原田城跡(北城)全体の構造把握へとつながっていく。今後も調査地周辺における確認調査・本発掘調査の際は、以上の状況を踏まえつつ慎重に実施する必要がある。

※文献1：豊中市教育委員会「原田遺跡第13次調査」『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成27年度(2015年度)』2016年3月



### 3. まとめ

## 第Ⅴ章 確認調査の成果

平成 27 年度 1 月から 3 月および平成 28 年度 4 月から 12 月の間に個人住宅を対象に行なった確認調査は 35 件を数え、平成 27 年度 8 件、平成 28 年度 27 件という内訳である。このうち、6 件の調査で遺構等が確認され、うち 2 件については協議の結果、本町遺跡第 42 次調査、桜塚古墳群第 13 次調査として本格的な発掘調査を行うこととなった。残り 4 件については、建物に伴う基礎掘削が遺構面に達しないことや建物基礎部分の設計変更などから、本格的な発掘調査を行うには至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第 19 図に掲載した調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

第 1 表 平成 28 年（2016 年）確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査原因	調査対象 面積 (㎡)	遺構等 の有無	調査後の処置	担当者	備考
1	島田遺跡	庄内幸町 2 丁目 60-3	20160114	個人住宅建設	48.05	無	着工	橘田	
2	新免遺跡	末広町 2 丁目 22-9	20160128	個人住宅建設	55.28	無	着工	陣内	
3	穂積遺跡	服部豊町 1 丁目 200-7	20160204	個人住宅建設	118.98	無	着工	陣内	
4	蛭池北遺跡	蛭池北町 1 丁目 137-1	20160225	個人住宅建設	62.10	未	着工	橘田	基礎浅
5	豊島北遺跡	曾根南町 1 丁目 158-8	20160303	個人住宅建設	61.73	有	着工	陣内	遺構無
6	原田遺跡	原田元町 2 丁目 171	20160310	個人住宅建設	59.62	未	着工	陣内	盛土内
7	上津島遺跡	上津島 2 丁目 123-45	20160317	個人住宅建設	48.10	無	着工	陣内	
8	桜井谷窯跡群	宮山町 4 丁目 14-15	20160331	個人住宅建設	71.91	無	着工	橘田	
9	北条遺跡	小曾根 2 丁目 1804-44.45	20160414	個人住宅建設	28.75	無	着工	橘田	
10	本町遺跡	本町 3 丁目 105-7	20160428	個人住宅建設	55.36	有	協議後、本調査	橘田	本町 42 次
11	上津島遺跡	上津島 2 丁目 148-50	20160428	個人住宅建設	61.28	無	着工	橘田	
12	熊野田遺跡	熊野町 3 丁目 23-1 の一部、24-4	20160512	個人住宅建設	97.30	未	着工	橘田	盛土内
13	桜井谷窯跡群	熊野町 4 丁目 185-1、167-3	20160602	個人住宅建設	405.58	無	着工	陣内	
14	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 246-10	20160609	個人住宅建設	82.48	有	協議後、本調査	橘田	桜塚古墳群 13 次
15	島田遺跡	庄内幸町 2 丁目 59-38	20160616	個人住宅建設	32.80	未	着工	陣内	盛土内
16	柴原遺跡	刀根山 2 丁目 317-21	20160616	個人住宅建設	46.37	無	着工	陣内	
17	小曾根遺跡	小曾根 1 丁目 453-1.8、457-4 他	20160616	個人住宅建設	39.00	無	着工	陣内	
18	太鼓塚古墳群	永楽荘 3 丁目 58-3	20160623	個人住宅建設	54.73	無	着工	陣内	
19	小曾根遺跡	北条町 1 丁目 53-5.15	20160623	個人住宅建設	38.18	無	着工	陣内	
20	小曾根遺跡	北条町 1 丁目 53-4.5 の各一部	20160623	個人住宅建設	69.57	無	着工	陣内	
21	下原窯跡群	中桜塚 5 丁目 79	20160623	個人住宅建設	114.69	無	着工	陣内	
22	本町遺跡	本町 4 丁目 134-2.5.6	20160707	個人住宅建設	53.35	無	着工	陣内	
23	岡町北遺跡・桜塚古墳群	岡町北 2 丁目 43-1.2 の一部	20160721	個人住宅建設	53.82	無	着工	陣内	
24	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 116 の一部	20160804	個人住宅建設	49.33	無	着工	陣内	
25	本町遺跡	本町 3 丁目 338-6	20160818	個人住宅建設	57.13	有	再立会後、慎重工事	陣内	基礎浅
26	新免遺跡	玉井町 4 丁目 1-7	20160818	個人住宅建設	77.43	有	再立会後、慎重工事	陣内	設計変更
27	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 44-2	20160825	個人住宅建設	80.92	無	着工	陣内	
28	寺内遺跡	若竹町 2 丁目 2036 の一部	20160908	個人住宅建設	96.50	無	着工	陣内	
29	熊野田遺跡	熊野町 4 丁目 223	20160908	個人住宅建設	25.93	無	着工	陣内	
30	蛭池遺跡・麻田藩陣屋跡	蛭池中町 2 丁目 133	20161006	個人住宅建設	46.37	無	着工	陣内	
31	寺内遺跡	若竹町 2 丁目 2036 の一部	20161013	個人住宅建設	50.51	有	再立会後、慎重工事	陣内	遺構無
32	岡町北遺跡・桜塚古墳群	岡町北 3 丁目 23-3	20161013	個人住宅建設	57.14	未	着工	陣内	盛土内
33	桜井谷窯跡群	上野西 3 丁目 182-6	20161020	個人住宅建設	64.93	無	着工	陣内	
34	上津島遺跡	上津島 2 丁目 130-49	20161110	個人住宅建設	64.79	無	着工	陣内	
35	岡町北遺跡・桜塚古墳群	岡町北 3 丁目 35-4	20161124	個人住宅建設	56.69	無	着工	橘田	



第 19 図 確認調査地点位置図

## 2016－01 島田遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）1 月 14 日

調査場所：豊中市庄内幸町 2 丁目 60－3

調査対象面積：48.05㎡

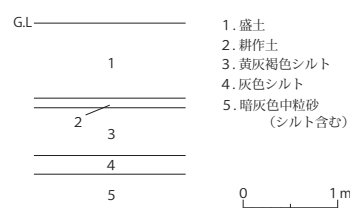
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 160cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 20 図 トレンチ掘削状況



第 21 図 トレンチ断面図

## 2016－02 新免遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）1 月 28 日

調査場所：豊中市玉井町 2 丁目 22－9

調査対象面積：55.28㎡

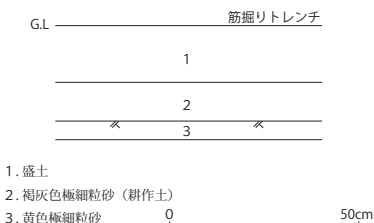
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 25cmにおいて基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 22 図 トレンチ掘削状況



第 23 図 トレンチ断面図

## 2016－03 穂積遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）2 月 4 日

調査場所：豊中市服部豊町 1 丁目 200－7

調査対象面積：118.98㎡

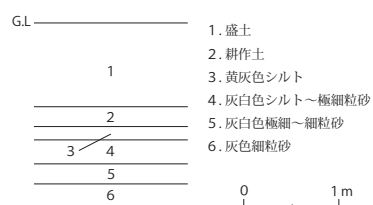
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 195cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 24 図 トレンチ掘削状況



第 25 図 トレンチ断面図



## 2016－04 蛭池北遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）2 月 25 日

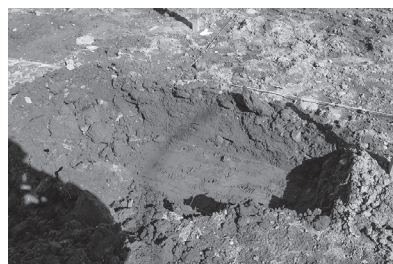
調査場所：豊中市蛭池北町 1 丁目 137－1

調査対象面積：62.10m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 25～30cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認できなかった。

調査後の処置：基礎掘削は表土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。



第 26 図 トレンチ掘削状況



第 27 図 トレンチ断面図

## 2016－05 豊島北遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）3 月 3 日

調査場所：豊中市曾根南町 1 丁目 158－8

調査対象面積：61.73m<sup>2</sup>

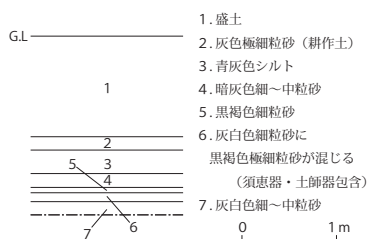
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 165～175cmにおいて、須恵器・土師器破片を含む遺物包含層を検出した。

調査後の処置：盛土より下位の各層において、明確な遺構は認められなかったことから、確認調査後、着工を指示。



第 28 図 トレンチ掘削状況



第 29 図 トレンチ断面図

## 2016－06 原田遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）3 月 10 日

調査場所：豊中市原田元町 2 丁目 171

調査対象面積：59.62m<sup>2</sup>

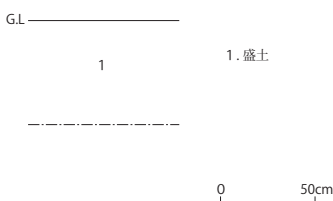
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 55cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。



第 30 図 トレンチ掘削状況



第 31 図 トレンチ断面図

## 2016－07 上津島遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）3 月 17 日

調査場所：豊中市上津島 2 丁目 123－45

調査対象面積：48.10m<sup>2</sup>

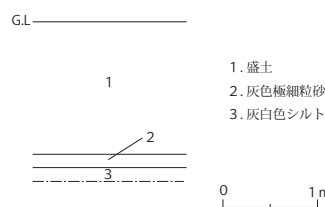
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 170cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 32 図 トレンチ掘削状況



第 33 図 トレンチ断面図

## 2016－08 桜井谷窯跡群

調査日：平成 28 年（2016 年）3 月 31 日

調査場所：豊中市宮山町 4 丁目 14－15

調査対象面積：71.91m<sup>2</sup>

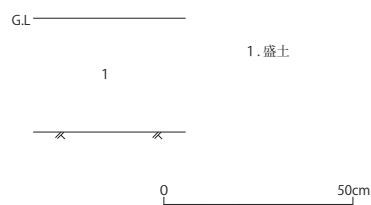
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 30cm において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 34 図 トレンチ掘削状況



第 35 図 トレンチ断面図

## 2016－09 北条遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）4 月 14 日

調査場所：豊中市小曾根 2 丁目 1804－44,45

調査対象面積：28.75m<sup>2</sup>

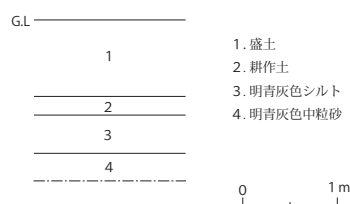
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 170cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 36 図 トレンチ掘削状況



第 37 図 トレンチ断面図

## 2016－10 本町遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）4 月 28 日

調査場所：豊中市本町 3 丁目 105－7

調査対象面積：55.36㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

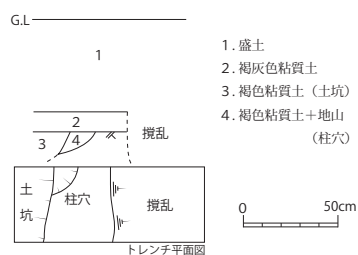
調査の概要：地表下 50cm において遺物包含層を、地表下 60cm において土坑及び柱穴を検出した。

調査後の処置：協議後、発掘調査を行う。

（本町遺跡第 42 次調査）



第 38 図 トレンチ掘削状況



第 39 図 トレンチ平面・断面図

## 2016－11 上津島遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）4 月 28 日

調査場所：豊中市上津島 2 丁目 148－50

調査対象面積：61.28㎡

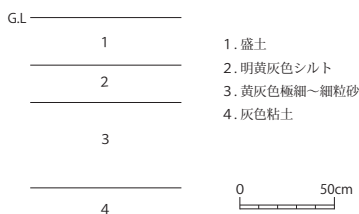
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 180cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 40 図 トレンチ掘削状況



第 41 図 トレンチ断面図

## 2016－12 熊野田遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）5 月 12 日

調査場所：豊中市熊野町 3 丁目 23－1 の一部  
24－4

調査対象面積：97.3㎡

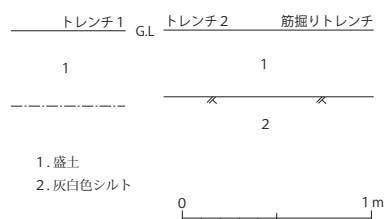
調査の方法：重機により坪掘り及び筋掘りトレンチを各 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 2 の地表下 35cm において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：深基礎部分においては明確な遺構はなく、それ以外は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。



第 42 図 トレンチ掘削状況



第 43 図 トレンチ断面図



## 2016－13 桜井谷窯跡群

調査日：平成28年（2016年）6月2日

調査場所：豊中市熊野町4丁目185－1、167－3

調査対象面積：405.58㎡

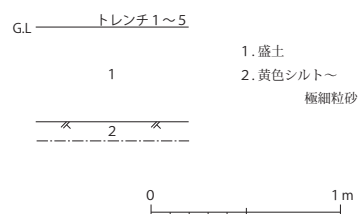
調査の方法：重機によりトレンチ5か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下約50cmにおいて基盤層を検出したが、窯跡関連の明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第44図 トレンチ掘削状況



第45図 トレンチ断面図

## 2016－14 桜塚古墳群

調査日：平成28年（2016年）6月9日

調査場所：豊中市南桜塚1丁目246－10

調査対象面積：82.48㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

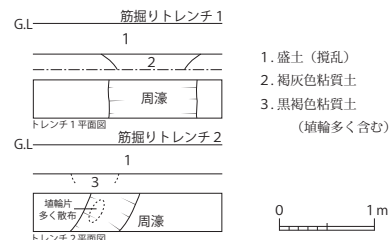
調査の概要：地表下30～35cmにおいて、古墳周濠を検出した。

調査後の処置：協議後、発掘調査を行う。

（桜塚古墳群第13次調査）



第46図 トレンチ掘削状況



第47図 トレンチ平面・断面図

## 2016－15 島田遺跡

調査日：平成28年（2016年）6月16日

調査場所：豊中市庄内幸町2丁目59－38

調査対象面積：32.8㎡

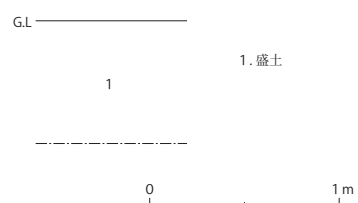
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下65cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第48図 トレンチ掘削状況



第49図 トレンチ断面図



## 2016－16 柴原遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）6 月 16 日

調査場所：豊中市刀根山 2 丁目 317－21

調査対象面積：46.37m<sup>2</sup>

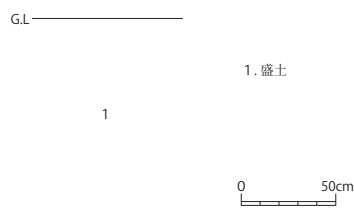
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、  
トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 105cm）内において、  
明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 50 図 トレンチ掘削状況



第 51 図 トレンチ断面図

## 2016－17 小曽根遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）6 月 16 日

調査場所：豊中市小曽根 1 丁目 453－1,8  
457－4、458－4

調査対象面積：39.0m<sup>2</sup>

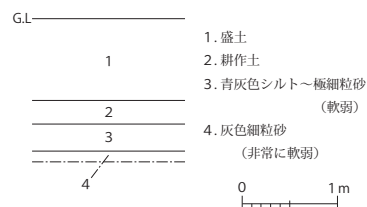
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、  
トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 150cm）内において、  
明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 52 図 トレンチ掘削状況



第 53 図 トレンチ断面図

## 2016－18 太鼓塚古墳群

調査日：平成 28 年（2016 年）6 月 23 日

調査場所：豊中市永楽荘 3 丁目 58－3

調査対象面積：54.73m<sup>2</sup>

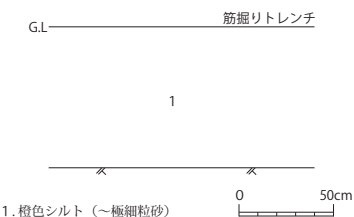
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘  
削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 75cmにおいて基盤層を検出した  
が、古墳関連の明確な遺構・遺物等は確認されな  
かった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 54 図 トレンチ掘削状況



第 55 図 トレンチ断面図

## 2016－19 小曽根遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）6 月 23 日

調査場所：豊中市北条町 1 丁目 53－5,15 の一部

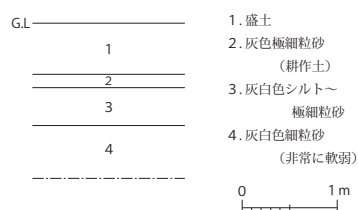
調査対象面積：38.18㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、  
トレンチ内を精査した。調査の概要：掘削深度（地表下 165cm）内において、  
明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 56 図 トレンチ掘削状況



第 57 図 トレンチ断面図

## 2016－20 小曽根遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）6 月 23 日

調査場所：豊中市北条町 1 丁目 53－4,5 の各一部

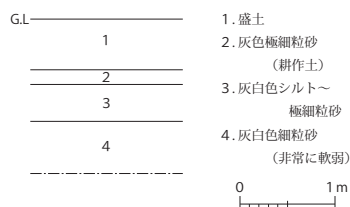
調査対象面積：69.57㎡

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、  
トレンチ内を精査した。調査の概要：掘削深度（地表下 165cm）内において、  
明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 58 図 トレンチ掘削状況



第 59 図 トレンチ断面図

## 2016－21 下原窯跡群

調査日：平成 28 年（2016 年）6 月 23 日

調査場所：豊中市中桜塚 5 丁目 79

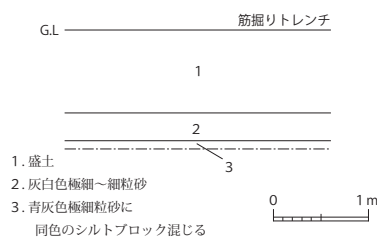
調査対象面積：114.69㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘  
削し、トレンチ内を精査した。調査の概要：掘削深度（地表下 125cm）内において、  
窯跡関連の明確な遺構・遺物等は確認されなかつ  
た。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 60 図 トレンチ掘削状況



第 61 図 トレンチ断面図

## 2016－22 本町遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）7 月 7 日

調査場所：豊中市本町 4 丁目 134－2,5,6

調査対象面積：53.35㎡

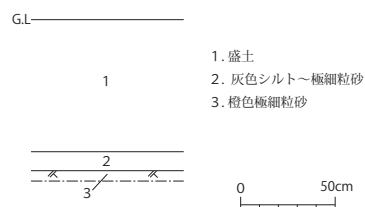
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、  
トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 80cm において基盤層を検出した  
が、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 62 図 トレンチ掘削状況



第 63 図 トレンチ断面図

## 2016－23 岡町北遺跡・桜塚古墳群

調査日：平成 28 年（2016 年）7 月 21 日

調査場所：豊中市岡町北 2 丁目 43－1,2 の各一部

調査対象面積：53.82㎡

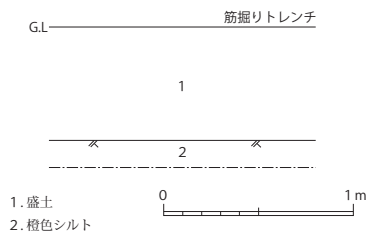
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘  
削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60cm において基盤層を検出した  
が、古墳関連の明確な遺構・遺物等は確認されな  
かった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 64 図 トレンチ掘削状況



第 65 図 トレンチ断面図

## 2016－24 桜塚古墳群

調査日：平成 28 年（2016 年）8 月 4 日

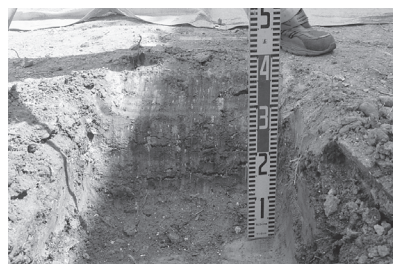
調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 116 の一部

調査対象面積：49.33㎡

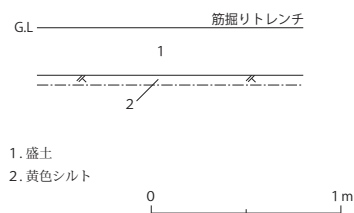
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘  
削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 25cm において基盤層を検出した  
が、古墳関連の明確な遺構・遺物等は確認されな  
かった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 66 図 トレンチ掘削状況



第 67 図 トレンチ断面図



## 2016 - 25 本町遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）8 月 18 日

調査場所：豊中市本町 3 丁目 338 - 6

調査対象面積：57.13㎡

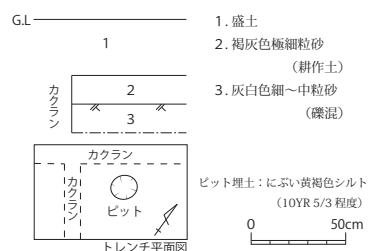
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、  
トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 45cmにおいて基盤層を、その上面で遺構を検出したが、遺物は確認されなかった。  
埋土の特徴及び周辺の確認調査の結果から、遺構の時期は中世より以前と考えられる。

調査後の処置：基礎掘削は耕作土内におさまることから、再立会后、慎重工事を指示。



第 68 図 トレンチ掘削状況



第 69 図 トレンチ平面・断面図

## 2016 - 26 新免遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）8 月 18 日

調査場所：豊中市玉井町 4 丁目 1 - 7

調査対象面積：77.43㎡

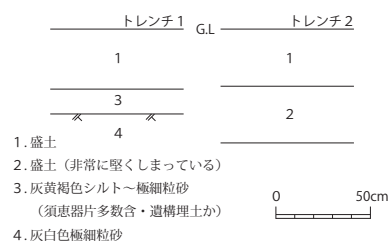
調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、  
トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 1 で地表下 32cmにおいて、須恵器片を多数包含する遺構埋土層を確認した。

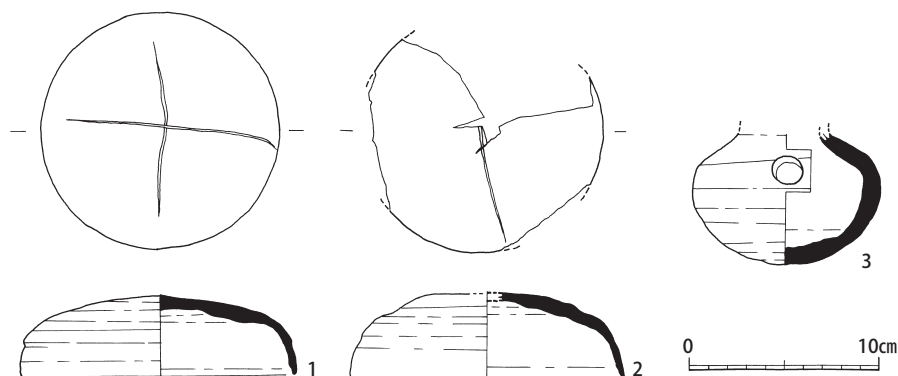
調査後の処置：設計変更により基礎掘削が盛土内におさまることから、再立会后、慎重工事を指示。



第 70 図 トレンチ掘削状況



第 71 図 トレンチ断面図



2016 - 26 新免遺跡 確認調査 出土遺物 (1 : 4)

## 2016－27 桜塚古墳群

調査日：平成 28 年（2016 年）8 月 25 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 44－2

調査対象面積：80.92m<sup>2</sup>

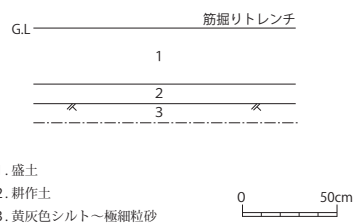
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40cm において基盤層を検出したが、古墳関連の明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 72 図 トレンチ掘削状況



第 73 図 トレンチ断面図

## 2016－28 寺内遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）9 月 8 日

調査場所：豊中市若竹町 2 丁目 2036 の一部

調査対象面積：96.5m<sup>2</sup>

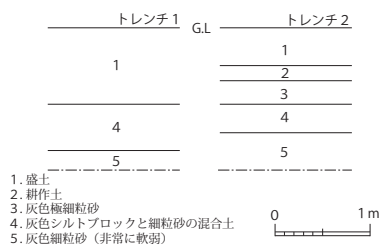
調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 150cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 74 図 トレンチ掘削状況



第 75 図 トレンチ断面図

## 2016－29 熊野田遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）9 月 8 日

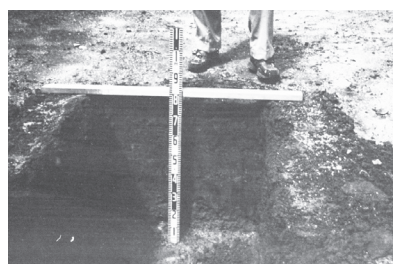
調査場所：豊中市熊野町 4 丁目 223

調査対象面積：25.93m<sup>2</sup>

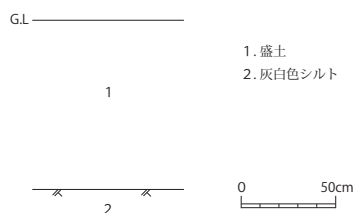
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 90cm において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 76 図 トレンチ掘削状況



第 77 図 トレンチ断面図



## 2016－30 蛭池遺跡・麻田藩陣屋跡

調査日：平成 28 年（2016 年）10 月 6 日

調査場所：豊中市蛭池中町 2 丁目 133

調査対象面積：46.37㎡

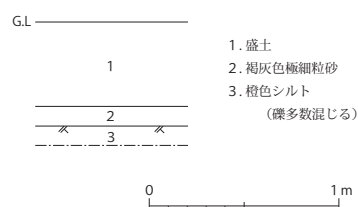
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 55cm において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 78 図 トレンチ掘削状況



第 79 図 トレンチ断面図

## 2016－31 寺内遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）10 月 13 日

調査場所：豊中市若竹町 2 丁目 2036 の一部

調査対象面積：50.51㎡

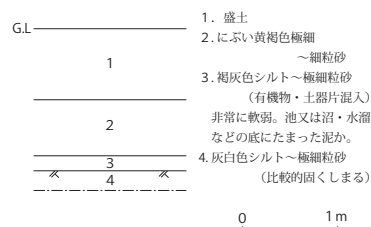
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 135 ～ 150cm において土器片を含む土層を確認した。この土層は観察の結果、沼・溜池等の底面に堆積したものとみられ、土器片も流入又は混入したものと考えられる。

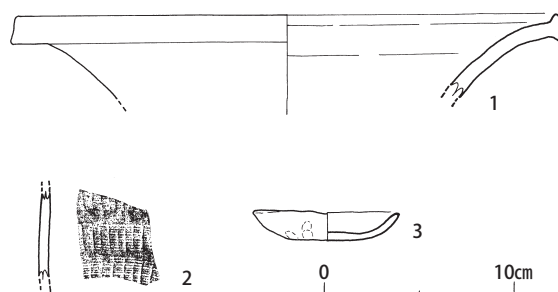
調査後の処置：遺構は確認されなかったことから、再立会后、慎重工事を指示。



第 80 図 トレンチ掘削状況



第 81 図 トレンチ断面図



2016－31 寺内遺跡 確認調査 出土遺物（1：4）

## 2016－32 岡町北遺跡・桜塚古墳群

調査日：平成 28 年（2016 年）10 月 13 日

調査場所：豊中市岡町北 3 丁目 23－3

調査対象面積：57.14m<sup>2</sup>

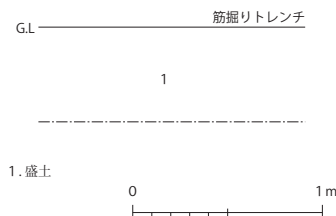
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 50cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎掘削は盛土内におさまることから、確認調査後、着工を指示。



第 82 図 トレンチ掘削状況



第 83 図 トレンチ断面図

## 2016－33 桜井谷窯跡群

調査日：平成 28 年（2016 年）10 月 20 日

調査場所：豊中市上野西 3 丁目 182－6

調査対象面積：64.93m<sup>2</sup>

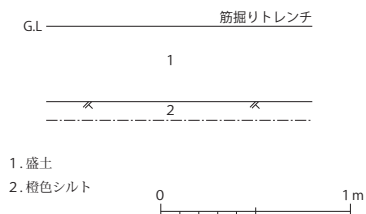
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40cm において基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 84 図 トレンチ掘削状況



第 85 図 トレンチ断面図

## 2016－34 上津島遺跡

調査日：平成 28 年（2016 年）11 月 10 日

調査場所：豊中市上津島 2 丁目 130－49

調査対象面積：64.79m<sup>2</sup>

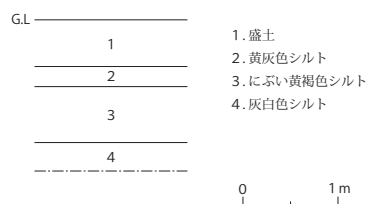
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 160cm）内において、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 86 図 トレンチ掘削状況



第 87 図 トレンチ断面図

## 2016－35 岡町北遺跡・桜塚古墳群

調査日：平成 28 年（2016 年）11 月 24 日

調査場所：豊中市岡町北 3 丁目 35－4

調査対象面積：56.69m<sup>2</sup>

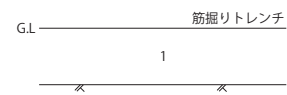
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 30cmにおいて基盤層を検出したが、明確な遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 88 図 トレンチ掘削状況



1. 盛土



第 89 図 トレンチ断面図

# 写真図版



図版 1 本町遺跡第 42 次調査



(1) 調査前（北西から）



(2) 重機掘削（北西から）





(1) 東半部 遺構検出状況(西から)



(2) 東半部 完掘状況(西から)



図版3 本町遺跡第42次調査



(1) 西半部 遺構検出状況（東から）



(2) 西半部 完掘状況（南西から）





(1) 土坑1 須恵器出土状況(北西から)



(2) 土坑2 検出状況(北東から)





(1) 土坑2 遺物出土状況(東から)



(2) 土坑2 遺物出土状況(拡大)





(1) SP16 断面 (東から)



(2) 溝1 断面 (南西から)

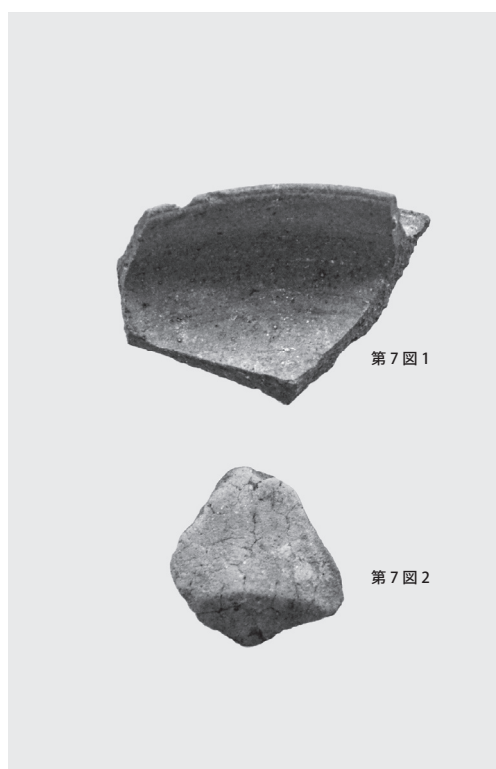




(1) 調査区南壁面断面（北から）



(2) 埋戻し後（北西から）



(1) 土坑 1 出土遺物



(2) SP8 出土遺物

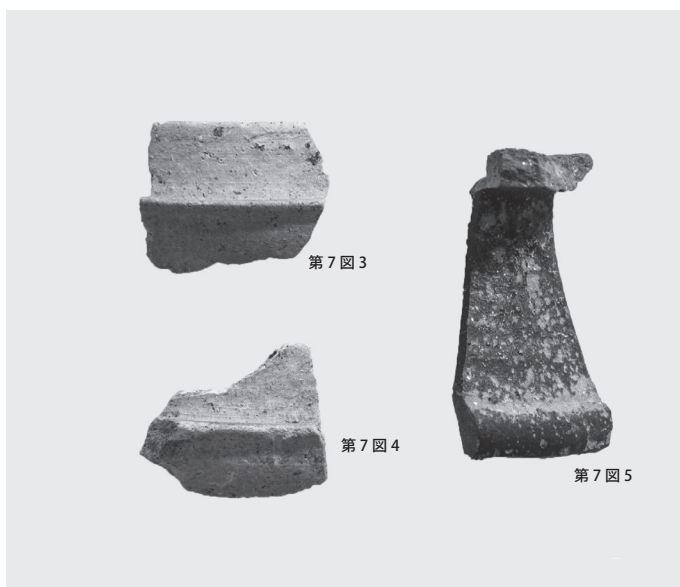


(3) 包含層出土遺物 1



(4) 包含層出土遺物 2

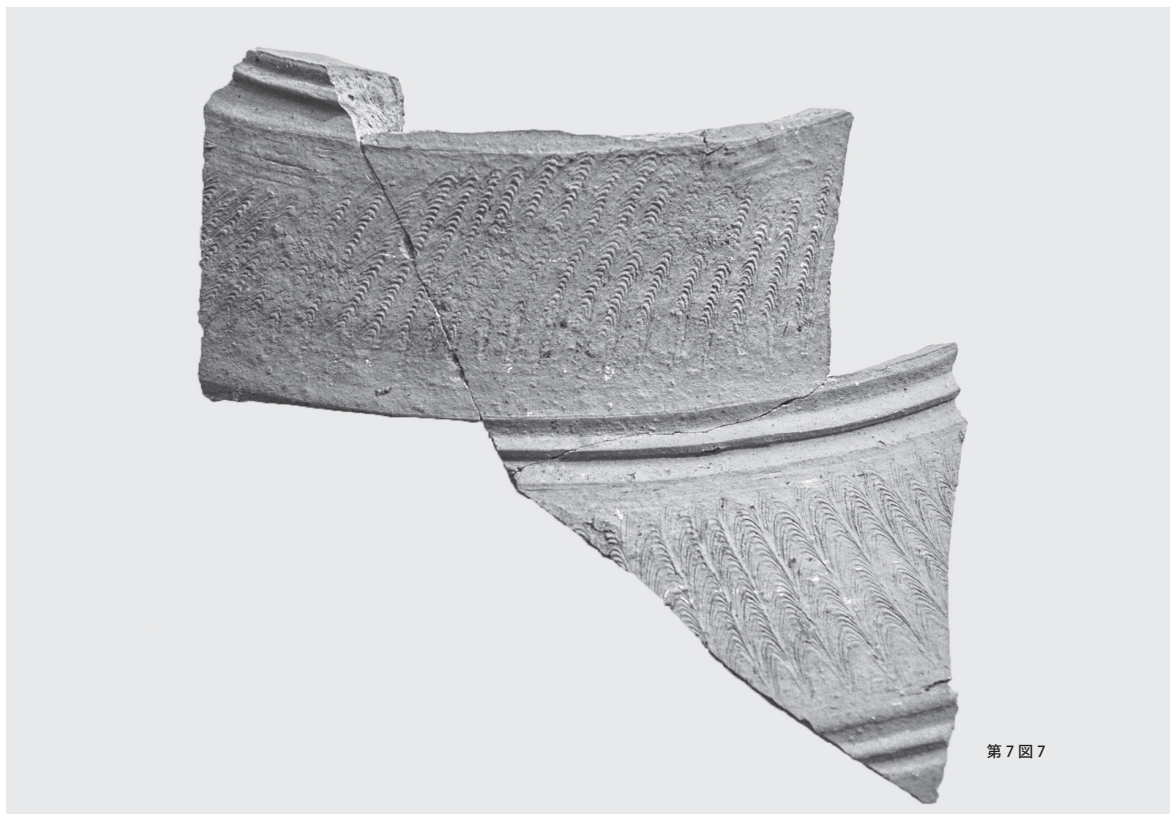




(1) 土坑2出土遺物1



(2) 土坑2出土遺物2



(3) 土坑2出土遺物3



(1) 1区 溝1断面 (西から)



(2) 1区 完掘状況 (南西から)





(1) 2区 溝2断面 (南から)

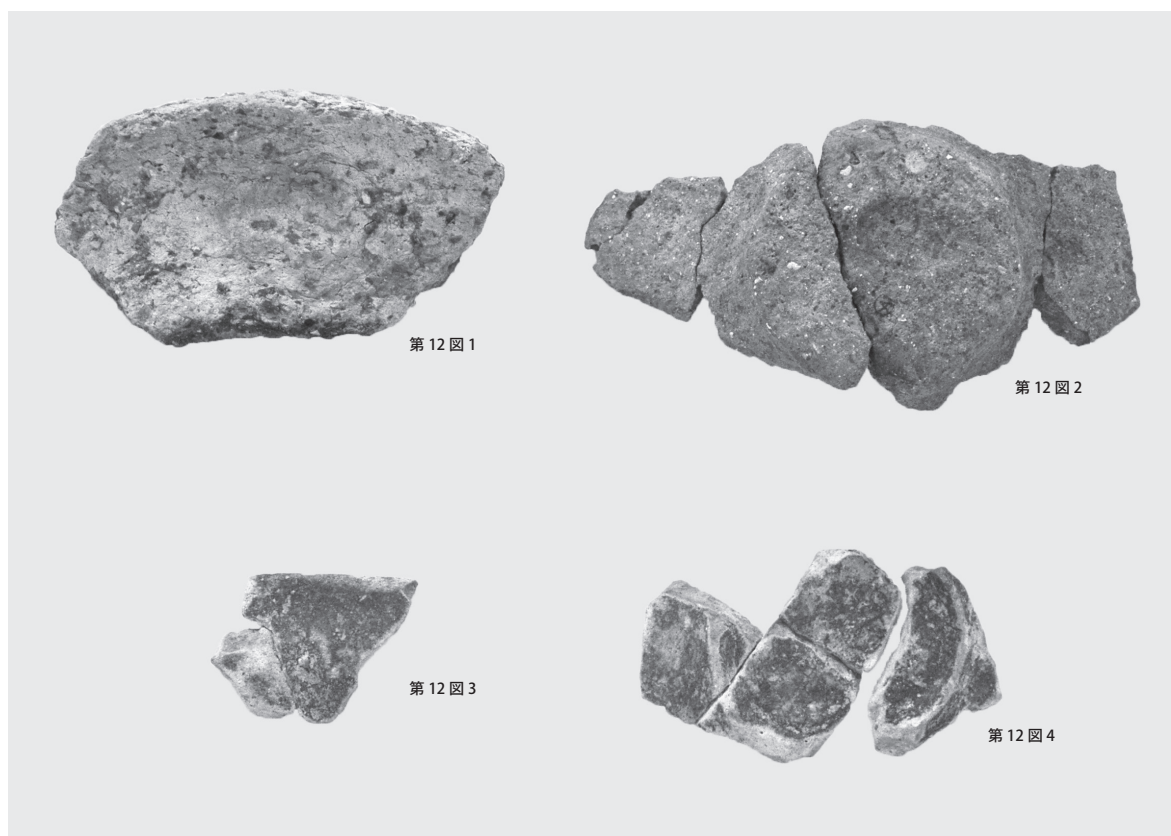


(2) 2区 完掘状況 (北東から)





(1) 溝 2 遺物出土状況



(2) 溝 1・2 出土遺物





(1) 調査前（北東から）

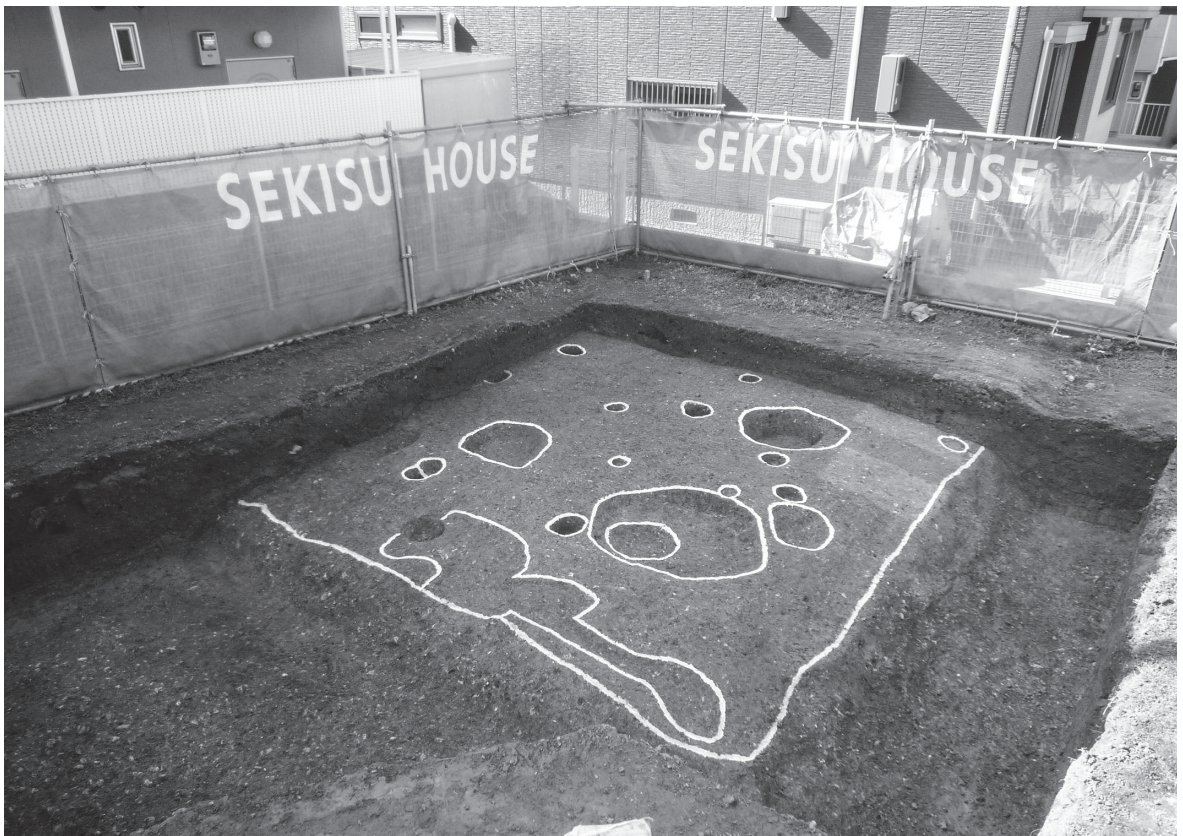


(2) 重機掘削開始（南西から）





(1) 西半部 遺構検出状況（北東から）



(2) 西半部 完掘状況（北東から）





(1) 東半部 遺構検出状況 (南西から)



(2) 東半部 完掘状況 (西から)





(1) 東半部 堀断面 (調査区東壁面)



(2) 東半部 堀掘削状況 (南西から)





(1) 西半部 堀（南北方向）断面



(2) 西半部 堀（東西方向）断面





(1) 西半部 堀屈曲部分 (上から)

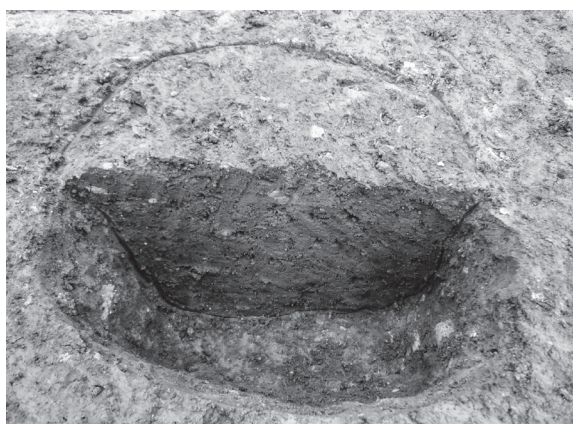


(2) 西半部 堀基底面





(1) 溝 2 (南西から)



(2) SP13 断面 (南東から)



(3) SP14 断面 (東から)



(4) SP23 断面 (南東から)



(5) SP37 断面 (南から)





(1) 埋戻し後（北西から）

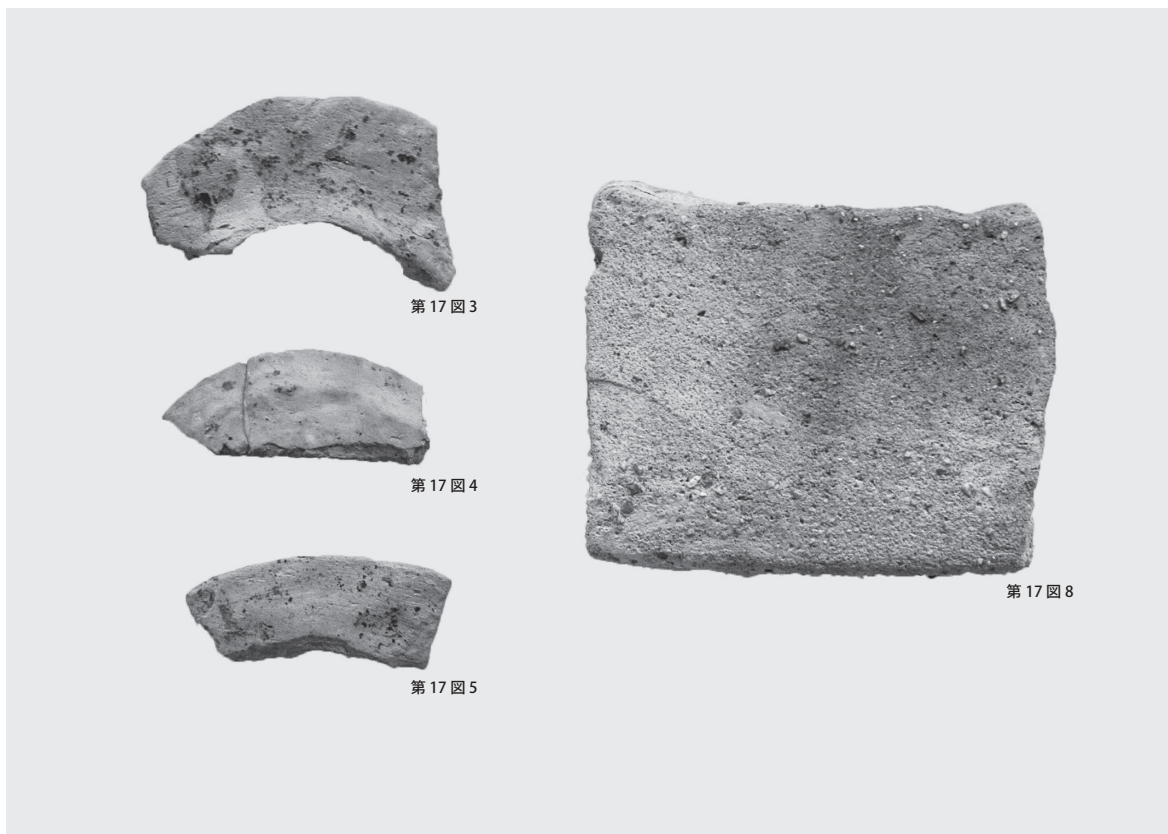


(2) 現地説明会（北西から）

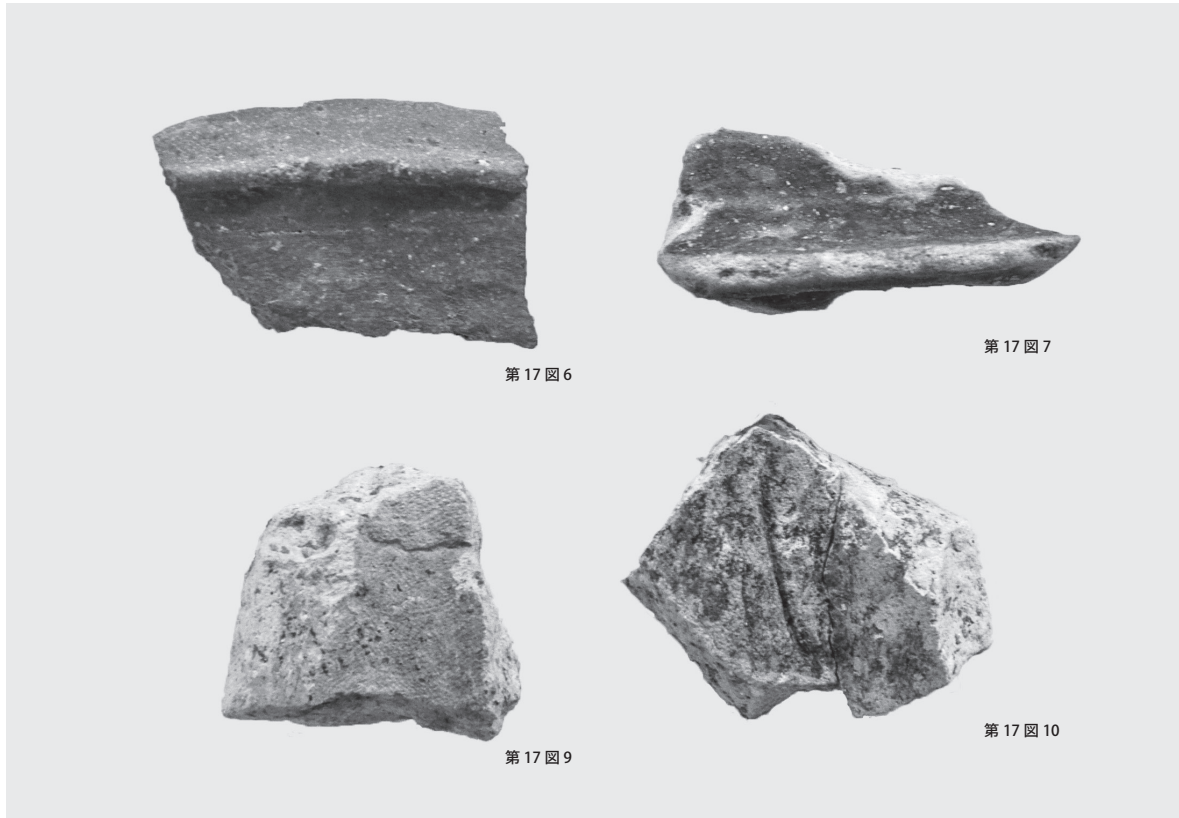




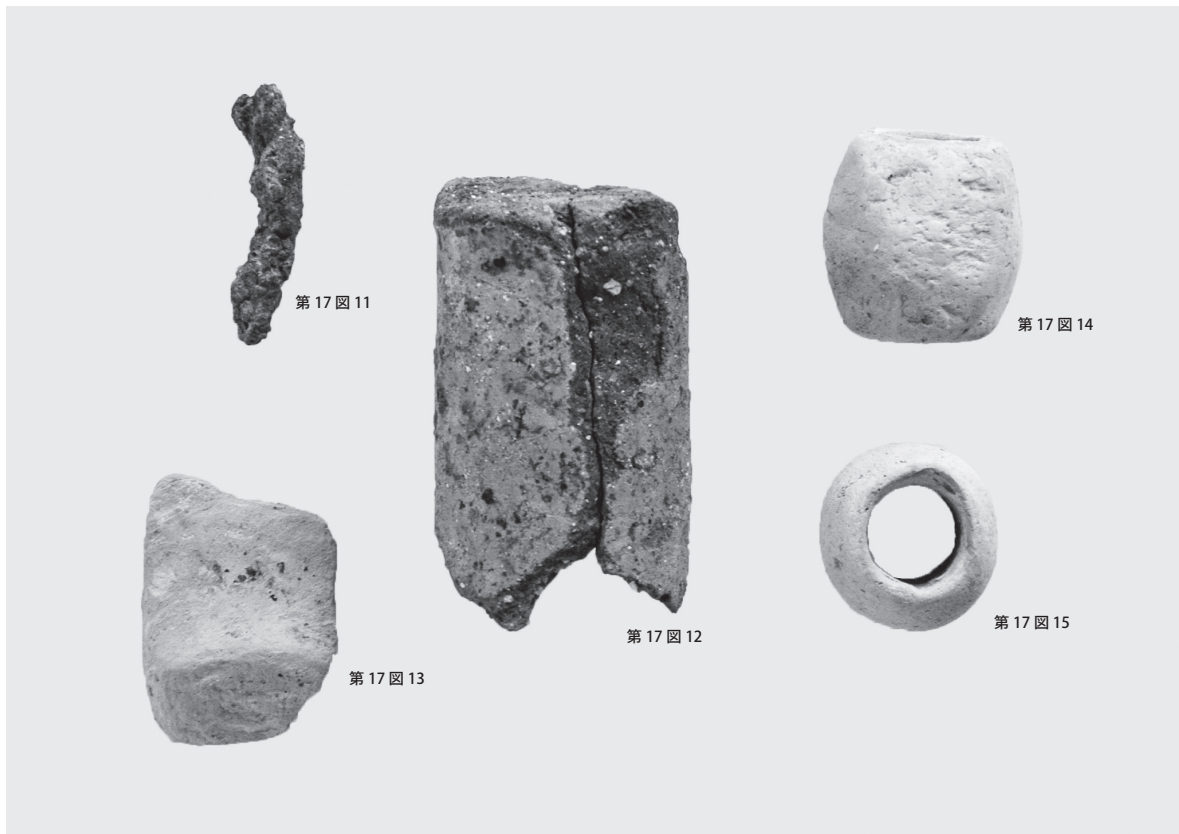
(1) 堀出土遺物 1



(2) 堀出土遺物 2



(1) 堀出土遺物 3



(2) 堀以外の出土遺物





## 報告書抄録

ふ り が な	とよなかし まいぞうぶんかざい はくつちょうさ がいよう					
書 名	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成 28 年度（2016 年度）					
シ リ ー ズ 名	豊中市文化財調査報告					
シリーズ番号	第 74 集					
編 著 者	陣内高志・清水 篤・浅田尚子					
編 集 機 関	豊中市教育委員会（市町村コード 27208）					
所 在 地	〒 561 － 8501 大阪府豊中市中桜塚 3 丁目 1 － 1 TEL06 － 6858 － 2581					
発 行 年 月 日	平成 29 年（2017 年）3 月 31 日					
所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
本町遺跡 第 42 次	本町 3 丁目 105 － 7	34° 47′ 13″	135° 27′ 47″	20160607 ～ 20160701	55.36 m <sup>2</sup>	個人住宅建築
桜塚古墳群 第 13 次	南桜塚 1 丁目 246 － 10	34° 46′ 18″	135° 28′ 25″	20160725 ～ 20160825	88.75 m <sup>2</sup>	個人住宅建築
原田遺跡 第 15 次	曾根西町 4 丁目 27-1、27-5	34° 46′ 11″	135° 27′ 59″	20161101 ～ 20161215	128.0 m <sup>2</sup>	個人住宅建築
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
本町遺跡 第 42 次	集落跡	弥生～近世	柱穴・溝・土坑	弥生土器・土師器・ 須恵器	古墳時代後期の 集落関連遺構を検出	
桜塚古墳群 第 13 次	古墳群	古墳	溝	弥生土器・瓦器	弥生時代後期の溝， 古墳周濠と推定される溝を検出	
原田遺跡 第 15 次	集落跡	弥生～近世	柱穴・堀	弥生土器・土師器	弥生時代後期の集落関連遺構、原 田城跡（北城）に伴う堀跡を検出	



---

豊中市文化財調査報告 第 74 集  
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 28 年度（2016 年度）

発行：豊中市教育委員会

豊中市中桜塚 3 丁目 1－1

平成 29 年（2017 年）3 月 31 日

印刷：株式会社きたがわぷりんと

---

